

---

# 土地分類基本調査

---

皆 部

5 万分の 1

国 土 調 査

岡 山 県

1 9 7 8

## 序 文

本県では、人間尊重、福祉優先の理念に立って人間性豊かな地域社会づくりを進めておりますが、県土の利用につきましても、秩序ある利用計画の下に、土地資源の有効な利用を図ることが重要な課題であると考えられます。

このような観点から、本県では、昭和50年度から国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査を実施しておりますが、この調査は、国土の地形、地質、土壌について調査するほか、開発関連として防災、開発規制、土地利用現況についても調査するものです。

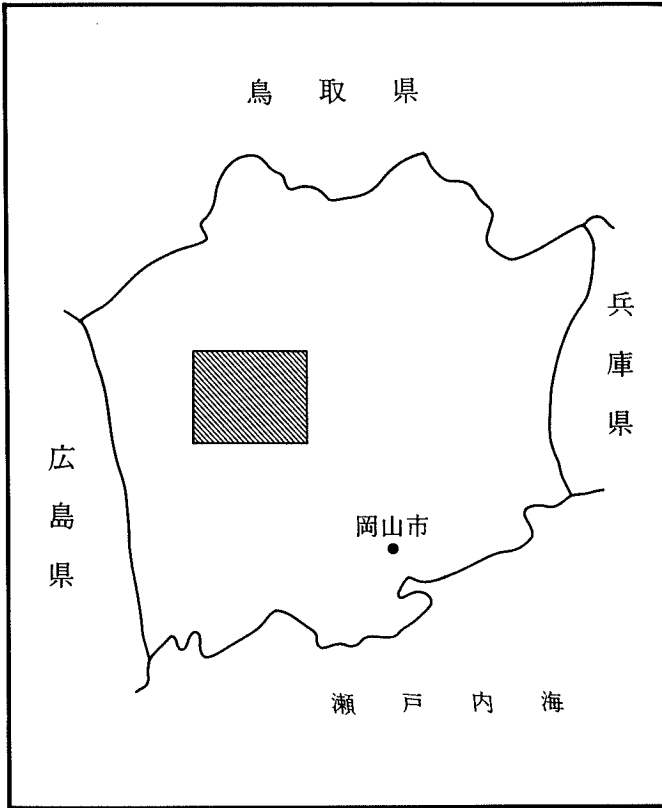
今回調査した「皆部」図幅は、昨年実施した「岡山北部」「福渡」図幅とともに県政の重点施策である吉備高原都市建設計画の対象地域と、その周辺地域を包括し、地域の特性をふまえた総合的・計画的な地域整備が特に望まれている地域であります。そういう意味からも、この調査結果が、今後の開発および各種土地利用計画等の基礎資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後に、本調査の実施にあたって、ご協力いただいた関係市町村並びに関係各位に深く感謝申し上げます。

昭和53年3月

岡山県企画部長 片 山 菊次郎

位 置 図



# 目 次

## 序 文 総 論

I 位置および行政区画	1
II 地域の特性	3
1 地勢, 気象	3
2 人口, 世帯数	5
3 交 通	6
4 産 業	6

## 各 論

I 地 形 分 類	9
1 地形分類と地形概説	9
2 地形各論	12
II 表 層 地 質	17
1 表層地質概説	17
2 表層地質各論	18
III 土 壤	23
1 山地, 丘陵地の土壌	23
2 台地, 低地の土壌	27
IV 傾 斜 区 分	33
V 水系・谷密度	36

VI 防 災 .....	38
VII 開 発 規 制 .....	40
VIII 土 地 利 用 現 況 .....	42
文化財一覽表	

## 調査担当者一覧

調	整	国土庁土地局国土調査課	
総	括	岡山県企画部土地対策課	課長 木坂敏男 主幹 桑田和巳
地形分類	調査	岡山大学教育学部	助教授 高橋達郎
表層地質	調査	岡山大学理学部	教授 光野千春
土	壤	調査	
(林地土壌)		岡山県林業試験場	専門研究員 木本 弘一郎
(農地土壌)		岡山県立農業試験場	専門研究員 平岡 正夫
開	発	関連調査	
(傾斜区分)	調査	岡山大学教育学部	助教授 高橋達郎
(水系・谷密度)	調査	岡山大学教育学部	助教授 高橋達郎
(防	災	図)	岡山県企画部土地対策課 主任 竹谷桂一
(開	発	規制図)	岡山県企画部土地対策課 主任 前田勝也
(土地	利用	現況図)	岡山県企画部土地対策課 主任 前田勝也

# 総論

# I 位置および行政区画

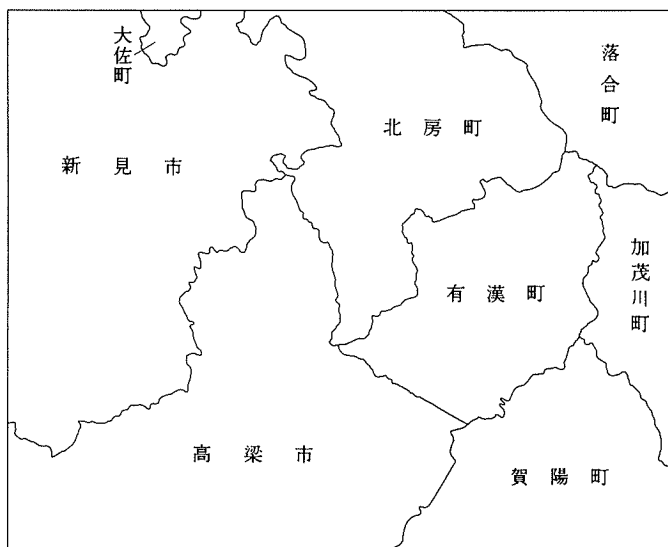
## 1. 位 置

「皆部」図幅は、岡山県の中西部に位置し、経緯度では、東経 $133^{\circ}30'$ ～ $133^{\circ}45'$ ，北緯 $34^{\circ}50'$ ～ $35^{\circ}00'$ の範囲内である。

## 2. 行 政 区 画

本図幅の行政区画は、第1図のとおり、高梁市，新見市，加茂川町，有漢町，北房町，賀陽町，大佐町及び落合町の2市6町を含んでいる。

第 1 図





第1表 図幅内市町村別面積

市町村		図幅内面積		市町村面積 (B) Km <sup>2</sup>	占有率 A/B (%)
		実数(A)Km <sup>2</sup>	構成 (%)		
高梁市		109.72	25.8	228.99	47.9
新見市		112.15	26.4	352.80	31.8
御津郡	加茂川町	16.96	4.0	141.36	12.0
上房郡	有漢町	46.76	11.0	46.31	100.0
	北房町	62.90	14.8	71.76	87.7
	賀陽町	45.11	10.6	127.26	35.4
阿哲郡	大佐町	2.40	0.6	122.39	2.0
真庭郡	落合町	29.00	6.8	147.61	19.6
計		425.00	100.0	1,238.48	34.3

(資料)建設省国土地理院による。

## Ⅱ 地域 の 特 性

### 1. 地勢, 気象

#### (1) 地 勢

この地域は、岡山県の中西部に位置し、東部は、吉備高原と呼ばれているが、大小の河谷によって刻み込まれた海拔400m～500mの山頂や尾根が存在する。また新見市から北房町にかけては、阿哲台地と呼ばれている石灰岩台地がひろがっており、台地上には、石灰岩台地特有の溶蝕に起因するドリーネ、ウバーレ、石灰洞などのカルスト地形が随所に見られる。

図幅内には、一級河川高梁川が図幅の西中央部から南東方向へと蛇行しながら流れており、河川沿いは、浸蝕された急傾斜の溪谷美が特徴的で狭い平坦地に集落が発達している。そのほか、高梁川水系の有漢川、小坂部川、佐伏川、津々川及び旭川水系の備中川、中津井川、宇甘川などの各河川があり、これらの河川沿いには、低平坦地、盆地等があり、農地、集落地などを形成している。

また、図幅の西北部、小坂部川には、かんがい・発電を目的とした小坂部ダムがあり、そのほか、大池山(663.9m) 大平山(697.3m) 赤馬本村(687m) 山王山(607m)などの山がある。

#### (2) 気 候

本図幅の気候は、北部と南部では異なるが、年平均気温13℃、降水量1600mm～1800mmで比較的温暖な気候といえるが、北部では、冬期にかなりの積雪を見ることがあり、降雪日も多くなっている。

北房町下砦部における気象状況は、第2表のとおりである。

第2表 気 象 概 況

(下砦部)

月別 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均 (年合計)
月別最高気温	7.5	9.9	13.2	18.3	23.2	26.0	29.8	30.7	24.9	21.5	14.0	9.30	19.0
月別最低気温	-4.4	-1.1	-0.1	5.0	10.2	16.2	19.9	20.2	13.7	9.0	1.6	-2.4	7.3
月別平均気温	1.6	4.5	6.6	11.6	16.7	21.1	24.8	25.5	19.3	15.2	7.8	3.4	13.2
月別降水日数	23	15	14	11	11	15	11	17	12	13	12	13	167
月別降水量 (mm)	37	107	72	173	180	175	78	171	492	114	68	56	1723

(資料) 日本気象協会岡山支部 昭和51年岡山県気象月報による

## 2. 人口、世帯数

本図幅に関係する2市8町の人口は、昭和40年には、124,462人であったものが、昭和45年には111,570人、昭和50年には、106,605人と減少の一途をたどっている。とくに、加茂川町、有漢町、賀陽町では、昭和40年から50年までの間に、いずれも20%以上の人口減少をみており、過疎化が進んでいる。

一方、世帯数については、昭和40年の27,982世帯から、昭和50年には、28,273世帯と1.4%の増加となっており、この地域においても世帯分離のすすんでいることを示している。

第3表 市町村別人口、世帯数

市町村	年別 区分	昭和40年(A)	昭和45年(B)	昭和50年(C)	指 数	
		国勢調査	国勢調査	国勢調査	B/A %	C/A %
高梁市	人口	31,327	28,967	27,701	92.5	88.4
	世帯数	7,186	7,243	7,554	100.8	105.1
新見市	人口	34,063	30,966	30,014	90.9	88.1
	世帯数	7,698	7,819	8,060	101.6	104.7
加茂川町	人口	10,373	8,083	7,202	77.9	69.4
	世帯数	2,340	2,155	2,081	92.1	88.9
有漢町	人口	4,536	3,758	3,393	82.8	74.8
	世帯数	987	947	912	95.9	92.4
北房町	人口	8,716	7,655	7,585	87.8	87.0
	世帯数	1,914	1,887	1,888	98.6	98.6
賀陽町	人口	11,016	9,731	8,754	88.3	79.5
	世帯数	2,454	2,377	2,331	96.9	95.0
大佐町	人口	5,752	5,034	4,857	87.5	84.4
	世帯数	1,248	1,207	1,197	96.7	95.9
落合町	人口	18,679	17,376	17,099	93.0	91.5
	世帯数	4,155	4,123	4,250	99.2	102.3
計	人口	124,462	111,570	106,605	89.6	85.7
	世帯数	27,982	27,758	28,273	99.2	101.4

### 3. 交 通

本図幅内は、陰陽連絡の幹線である国鉄伯備線と国道180号線が高梁川に沿って走りさらに、国道313号線が落合町、北房町を経てこの図幅の中央を高梁市へと南下し、本地域と県南部をはじめとする他地域とを結ぶ重要な役割を果たしている。

また、北房町には、さきに開通した中国縦貫自動車道インターチェンジが設けられており、京阪神への新しい玄関として、重要な役割を果たしている。

その他、主要地方道、高梁・旭線、高梁・御津線、北房・井倉・哲西線など、一般県道、賀陽・有漢線、西方・巨瀬線、土橋・長屋線などが、地域の主な幹線道路として整備されている。

### 4. 産 業

この地域における主産業である農業については、米作のウエイトが高いが、その他にも畜産や果樹、野菜等の積極的な導入がはかられている。この地域は、全体として山地が多く、耕地面積が狭少であるため、現在も積極的に農地造成が進められ、大規模草地、樹園地、普通畑等の拡大がはかられている。

新見市の葉たばこ、桃、肉用牛や高梁市、有漢町、北房町の葉たばこ、加茂川町のブロイラー、乳用牛、賀陽町、落合町の葉たばこ、乳用牛、大佐町の肉用牛など、それぞれの地域の条件に応じた特色ある農業経営が行われている。

林業については、山林は、アカマツの天然林が比較的多く、全般的には、まだ生産性の低い森林が多く林業としての機能は少ないが最近、国有林を中心に杉・ヒノキの造林も積極的に行われている。

また、賀陽町、高梁市、加茂川町などは、マツタケの産地であるが、そのほかこの地域では近年シイタケの生産が大巾に増加している。

工業については、地域内には、大規模な工場は少ないが、新見市の石灰石・セメントを中心とした土石・窯業等の製造業、高梁市の鉄鋼・金属・木材家具製造業などが大きなウエイトを占めており、さらに農家等地元余剰労働力を利用した繊維加工業及び食料品製造も多くみられる。また、中国縦貫自動車道の完成により、この沿線市町村では、農村地域工業導入促進法等に基づく内陸工業化を積極的に推進しているが、現在までのところ、まだ、その成果をみるに至っていない。

第4表 産業別就業人口（昭和50年）

市町村	総数	第1次産業			第2次産業			第3次産業
		農業	林業 狩猟業	漁業	鉱業	建設業	製造業	
高梁市	15,036	3,993	29	19	31	1,358	3,074	6,532
新見市	15,812	4,152	194	8	280	1,839	2,839	6,500
加茂川町	4,392	2,233	42	1	1	469	603	1,043
有漢町	2,093	968	7	-	2	176	404	536
北房町	4,480	1,532	14	1	19	715	1,012	1,187
賀陽町	5,333	2,869	2	-	-	445	666	1,351
大佐町	2,772	1,095	87	-	2	502	321	765
落合町	9,734	3,212	30	1	18	932	2,219	3,322
計	59,652	20,054	405	30	353	6,436	11,138	21,236

（資料）国勢調査による〔分類不能の産業は第3次産業を含む〕

第5表 市町村別製造品出荷額等（昭和51年）

市町村	製造品 出荷総額	従業員数 人	事業所数 所	事業所内訳										
				食料品	繊維	木材 家具	パルプ 出版 印刷	石油 化学	窯業 土石	鉄鉱 金属	一般 機械	電気 機械	輸送 機材	その他
高梁市	1,440,917	2,167	138	31	29	26	12	1	8	14	4	3	1	9
新見市	1,779,168	2,823	154	16	54	20	11	0	27	4	5	10	1	6
加茂川町	94,989	400	29	5	13	5	0	0	1	1	0	2	0	2
有漢町	64,026	207	17	2	8	3	0	0	0	2	0	0	0	2
北房町	464,872	918	61	9	22	5	4	2	7	0	0	3	2	7
賀陽町	105,430	457	45	7	17	4	1	0	1	0	0	5	1	9
大佐町	64,529	244	21	4	10	3	0	0	1	0	0	3	0	0
落合町	724,302	1,738	86	19	29	12	6	0	6	4	0	2	0	8
計	4,738,233	8,954	551	93	182	78	34	3	51	25	9	28	5	43

（資料）工業統計調査による。

第6表 農業粗生産額（昭和51年）

単位 100万円

市 町 村	粗 生産額	耕 種					
		小 計	米	野 菜	果 実	工 業 農作物	その他
高 梁 市	3,938	2,639	1,214	414	51	847	113
新 見 市	3,345	2,667	1,067	317	149	995	139
加 茂 川 町	2,625	1,665	873	261	64	394	73
有 漢 町	974	817	428	75	9	284	21
北 房 町	1,965	1,181	595	151	6	398	31
賀 陽 町	3,860	2,590	1,671	176	41	654	48
大 佐 町	740	479	402	44	3	4	26
落 合 町	4,022	1,891	1,266	277	18	213	117
計	21,469	13,929	7,516	1,715	341	3,789	568

市 町 村	小 計	畜 産					加 工 農産物	養 蚕
		肉用牛	乳用牛	豚	ひわとり	その他		
高 梁 市	1,198	267	541	53	334	3	0	101
新 見 市	647	401	18	5	220	3	2	29
加 茂 川 町	955	133	276	6	538	2	0	5
有 漢 町	157	59	90	7	1	0	0	0
北 房 町	757	132	346	181	97	1	0	27
賀 陽 町	1,258	254	704	112	186	2	0	12
大 佐 町	255	146	107	1	1	0	1	5
落 合 町	2,114	263	900	217	730	4	0	17
計	7,341	1,655	2,982	582	2,107	15	3	196

（資料）生産農業所得統計による。

# 各論

# I 地 形 分 類

## 1. 地形分類と地形概説

### (1) 地形分類の基準

地形分類は、次の表に示す定義に従って行った。

地形の分類		定 義
大分類	小分類	
山地・ 火山地	大起伏(火)山地	・縮尺5万分の1地形図(国土地理院発行)を縦横各20等分した方眼内における最高点と最低点の差(以下これを起伏量という)が400m以上の(火)山地
	中起伏(火)山地	・起伏量400mから200mを有する(火)山地
	小起伏(火)山地	・起伏量200m以下を有する(火)山地
	(火)山麓地(I)	・起伏量100mから50mを有する(火)山麓部
	(火) " (II)	・起伏量50m以下を有する(火)山麓部
丘陵地	丘陵地(I)	・起伏量200mから100mを有する丘陵地
	丘陵地(II)	・起伏量100m以下を有する丘陵地
台地	岩石台地	・地表の平たんな台状又は段丘状の地域で基盤岩が出ているか又はきわめて薄く且つ軟弱な被覆物質でおおわれているもの
	砂礫台地	・地表の平たんな台状又は段丘状の地域で、厚く且つ、軟弱な砂礫層からなるもの
	石灰岩台地	・石灰岩からなる台状の地域で石灰岩特有の溶蝕形を示すもの
	火山灰砂台地	・火山灰砂礫の一次的堆積によってできた台状又は階段状の地域できわめて厚い火山灰砂礫からなるもの
	熔岩台地	・熔岩でおおわれ、周囲の崖で囲まれた台状の地域
低地	谷底平野	・谷底にある平たん面で現在河流の沖積作用が及ぶ地域
	扇状地	・山麓部にあって主として砂礫質からなる扇状の堆積地域
	三角洲	・河川の河口にあって主として泥土からなる低平な堆積地形の地域
	干河	・潟又は湖の干上がったもの(干拓地及び塩田も含む)
	潟原	・流水でおおわれることのある川ぞいの裸地
地	磯	・汀線附近の平たんな裸岩地域
	浜	・汀線附近の砂礫でおおわれた平たん地



山地と丘陵地との区別は一般に慣用的で確たる基準はない。本図幅の範囲では、備中川沿いの新第三系よりなる小起伏地および竹荘盆地周辺の新第三系または花崗岩よりなる起伏量100m以下の小起伏地を丘陵地とした。

表の定義に従えば山地は起伏量を基準として、大起伏・中起伏・小起伏の各山地に小分類される。この分類基準は便宜的なもので、それによる分類には若干の問題がある。たとえば、ひとまとまりの山地であっても、一方の斜面と反対側の斜面との起伏量が大きく異なる場合には、尾根を境として両側を異った起伏量の山地として表現せざるを得なくなる。なだらかで広い山頂部をもった台地状もしくは高原状の山地では、急峻な山腹斜面は大一中起伏山地であり、それより高位の山頂を含む地域が小起伏山地として分類されたりする。また同高の山頂を連ねるひとまとまりの地域でも谷が浅くなるに従って、小さい起伏の山地として表現されるようになる。

吉備高原山地では、谷底平野から急斜面を登りつめると、緩起伏の波浪状の地形が展開する。このようなところでは、しばしば山腹斜面は中起伏山地、それより高い山頂部は小起伏山地という配置をとる。したがって、これらを分ける境界としては、谷筋のみならず、尾根や山腹の傾斜変換線などが用いられる。一般に小起伏山地・中起伏山地などという用語からは、それぞれひとまとまりの山地を想起するが、ここではむしろ、山地のうちの小起伏の区域・中起伏の区域と理解するほうが望ましい。

吉備高原山地には、起伏量100m未満の起伏のかなり小さい地域が存在する。まろやかな丘陵状の山頂・尾根と浅い谷が、波打つように続く丘陵状の地域である。そのような地域については、一連の吉備高原山地内のものなので、ことさらに丘陵地として区別することを避け、小起伏山地のうちで「特に起伏の小さい地域」として表現した。

本図幅内には火山地は存在しない。また、火山灰砂台地・溶岩台地に該当する地形は存在しない。本図幅内には阿哲台と称ばれる石灰岩台地が存在する。吉備高原山地の一部をなす中一小起伏山地ともいえるが、石灰岩台地特有の台地面と急斜する台地縁をもつので、台地に編入した。なお石灰岩台地については、台地面で平坦地ないしは緩い傾斜地をなす地域、台地縁の急傾斜地、および平坦ないし緩傾斜の台地上に小高く突き出した丘陵地の三つに副分類した。石灰岩台地上の丘陵は、石

灰岩地域のなかに挟まれた非石灰岩の部分よりなる。ドリーネ、ウバーレなどの石灰岩地域の凹地形については、2万5千分の1地形図に表現されている程度のものを拾って図示した。

現河床からの比高がきわめて小さい低位の沖積段丘は谷底平野に含めている。

表に示した以外では、麓斜面、崖錐、崖、遷移点、主要分水界などを記載した。遷移点は、河床の傾斜度が急激に変化する地点のことであるが、本図に示したものは、5万分の1地形図に河川として表現されているもののみについて、遷急点（下流にむかって急になる地点）を記入した。

## (2) 地 形 概 説

本図幅は、吉備高原と呼ばれる高原状山地の中東部の一部分にあたる。高原状といっても、南隣の高梁図幅の地域で比較的広く認められた小起伏面は、本図幅内では阿哲石灰岩台地を除いては、大小の河谷によって刻みこまれているので、広く、連担したところはさほど多くはない。しかし海拔高度400m前後から500m程度の定高性が認められるなだらかな山頂や尾根が存在する。それらを結ぶ仮想面は、ある侵蝕平坦化の時期を示す面と考えられるが、分断された小起伏面の対比・再編成はまだ完成されていない。そこで、この高さのものを一括して、仮に中位面群と呼んでおく。阿哲石灰岩台地では400m前後から450mの高度に侵蝕平坦面をもち、その台地上に立つ丘陵の尾根は海拔高度500m前後である。これらも中位面群に含まれる。これら中位面をなす山地より抜きん出て、ところどころに突出する海拔550m前後から700m程度の残丘状山地がある。山頂もしくは山頂の下に小規模な緩斜面をもつものもあるが、分断されているので対比しにくい。一括して高位面群と呼ぶことにする。本図幅内の最高所は、図幅西端の海拔720mから大池山(663.9m)にかけての峰々、次いで東部の大平山(697.3m)、北西部の赤馬本村北西の三角点687.7mなどである。大平山山地の北西には、有漢川に沿って巨瀬町から川面町にかけて、中位面群より一段低い、350m以下250m程度の高さのなだらかな尾根を連ねる小起伏山地がある。また、竹荘盆地で山麓地に区分された緩起伏地は300—350mの尾根をもつ。以上のように、吉備高原山地は隆起準平原といわれても、いくつかの異った水準の侵蝕小起伏面が存在し、多輪廻性の地形であり、その形成過程は単純なものではない。侵蝕小起伏面の分類・対比は、

いくらかは試みられているが、まだ十分な説明はされていない。

本図幅の西部には、阿哲台とよばれている石灰岩台地が広がっている。台地面の緩起伏と、それと対照的に台地を下刻する河川の谷壁斜面の急傾斜とが特徴的である。また、ドリーネ・カレンフェルト・カルストトンネル・石灰洞などのカルスト地形が随所にみられる。

本図幅内の吉備高原山地を下刻する河川には、高梁川水系に属するものと、旭川水系に属するものがある。高梁川は本図幅の西部を北西から南東に向って嵌入蛇行している。小規模な谷底平野が僅かにみられるが、ほとんどはV字型の欠床谷で、急傾斜の谷壁をもつ。小阪部川・佐伏川・有漢川などが主な支流で、いずれも山地を深く切り込んでいる。高梁川・旭川両水系の間の分水界は大きくジグザグしている。西へ入り込んでいる備中川は、比較的幅広い谷底平野をもって、東北東へ流れている。図幅の東端近くに見られる豊岡川や畑枝川も旭川水系である。竹荘盆地は、旭川より高梁川にはるかに近い位置にあるが、宇甘川によって集水され、旭川水系に属している。竹荘盆地の南西端には高梁川側からの谷頭侵蝕が及んでおり、宇甘川の河床勾配に対して、佐与谷などの高梁川水系の河谷の急勾配が対照的である。水系については、別章でも概説する。

## 2. 地 形 各 論

以下、本図幅内を便宜上地域区分し、その主なものについて概略を述べる。地域名は仮称である。

〔阿哲石灰岩台地〕 哲多町から新見市、北房町にかけて、石灰岩台地が広がっている。高梁川石岸の石蟹台、左岸の草間台、さらに佐伏川の谷を隔てて豊永台などを含め、阿哲台と総称されている。台もしくは台地といわれる所以は、高梁川や、備中川の谷底から比高200mにも及ぶ急斜面が屏風のようにそそりたち、それを登り切ると、一転して視界が開け、極めて緩起伏の高原が連担するからである。台地縁の急斜面はほとんどが $30^{\circ}$ を越え、 $40^{\circ}$ を越す部分も少くない。台地上の小起伏面の標高は400m前後から450m程度である。この小起伏面上に丘陵状の高みがある。その海拔高度は500m前後であり、台地面からの比高は100mを越えない。台地面が石灰岩より構成されるのに対して、その丘陵地は非石灰岩の

古生層より成る。したがって丘陵の配列は地質構造に支配されており、草間台ではほぼ東西に帯状にのびる小起伏台地面と丘陵とが交互しており、豊永台では南部は西南西-東北東方向、北部では北北西-南南東方向の配列が卓越する。台地上には、石灰岩地域特有の溶蝕に起因するカルスト地形がみられる。ドリーネやウパーレなどの凹地が多く存在している。これらの凹地の配列も地質構造に支配された方向性をもつ。カレンは、畑地化されたところではしばしば除去されたり、埋め込まれたりしているが、雑木林の中などに、小規模なカレンフェルトがみられる。石灰洞としては、井倉洞・鬼女洞・宇山洞・満奇洞をはじめとして大小の洞がある。また、羅生門では見事なカルストトンネルや天然橋がみられる。

〔赤馬山地・東新見山地〕 阿哲石灰岩台地の北に接し、その北西側を小阪部川の谷で切られて山地を赤馬山地、また小阪部川より北西の山地を東新見山地と仮称する。両山地とも主として流紋岩質碎屑岩類よりなり、海拔600mから700m近い高度をもつ峰々の連なる中起伏山地であるが、一部500m前後の高さに小起伏面が認められる。

〔大池山山地〕 本図幅の南西端に位置し、北は大沙利谷、南は遠原の谷に挟まれた範囲で、大池山(663.9m)を中心とし、標高650m前後から720mにかけての峰々を連ねる中起伏山地である。法曾本村-大栢-秋が迫-石浦-高谷の谷以東、高梁川に至る間の一段低い、標高400m-500mの山地をも含める。法曾の済渡寺付近には高さ450m-500m前後の小起伏面がみられる。山地は主として流紋岩類で構成されるが、井高以下の高梁川右岸の地域には古生層が分布する。

〔西高梁山地〕 遠原の谷から南、高梁図幅にかけて、標高400-450m前後の高原が広がる台地状の山地である。本図幅内には、主としてその北側斜面が含まれているが、浅所付近では高度400m前後の小起伏面が認められる。

〔北高梁山地〕 津々川の南、祇園山(550m)、秋葉山(591.0m)を中心に、500m前後から600m近い尾根を連ねる中起伏山地で、南東は、一段低い有漢山地に接し、南西は高梁川の谷で切られる範囲をいう。祇園山や秋葉山の山頂下などに500m前後の緩起伏面が広がっている。山地は主として古生層と流紋岩類とによって構成されている。

〔津々山地〕 豊永台の南から津々川の谷に至る間の、標高450m前後の峰をも

つ中起伏の山地で、流紋岩類よりなる。津々川の谷に沿っては、第三系の小起伏丘陵が存在する。

〔木野山山地〕 木野山(517.8m)を中心とした中起伏山地で主として流紋岩類よりなる。高度500m前後に小規模な小起伏面が認められる。

〔有漢山地〕 大平山山地と北高梁山地とに挟まれた有漢川沿いの地域は、両側の中起伏山地より低く、海拔250-350mの高さの尾根を連ねる小起伏山地である。起伏量100m以下で、丘陵状の地域が広い。これを有漢山地と呼ぶ。この山地は主として花崗岩類より構成されるが、標高320m以下にところどころ山砂利層が分布している。250-350mの緩い傾斜の尾根は、背後の山地からは明瞭な傾斜の変換線をもって区別される。山地前面に定高性をもつこの緩起伏面について、三野与吉は有漢侵蝕平坦面と名づけ、岩石床起源と考えた。後に赤木祥彦(1961)のいうベディメントである。有漢川は、この侵蝕平坦面を掘りこんで、狭長な谷底平野を連ねている。

〔大平山山地〕 大平山(697.3m)から南西へ権現山(599.6m)、神子山(579m)、聖望山(560.7m)と連なる中起伏山地で、南東側竹荘盆地の山麓地は350m以下であり、また北西側は250-350mの有漢山地であるので、際立った高みとなる。流紋岩(大平山・神子山)、石英閃緑岩(権現山)、安山岩(聖望山)などより構成された山地である。大平山山頂の下、海拔650m近い高さに緩斜面がある。

〔竹荘盆地〕 北から西にかけてを大平山山地に、東から南を豊野山地と賀陽山地とに囲まれた盆地で、宇甘川の作る谷底平野、周辺の山地から明瞭な傾斜変換線をもって以下緩い傾斜地をなす山麓地、および新第三系または花崗岩類よりなる小起伏丘陵から構成される。最も主要な構成要素は山麓地である。谷底低地は250-300m、山麓地は350m前後より以下に広がり、丘陵地は350mから400m前後の標高をもつ。盆地を構成する地層は中新統で、未固結の砂層、シルト層、砂礫層よりなる。沖積層は薄い。中新統よりなる山麓地は、両側山地からの小さな谷によって浅い皿状の谷となだらかな尾根とが交互する。盆地のほとんどが宇甘川水系に含まれるが、盆地南西端には高梁山支流の佐与谷川が侵蝕を進めてきており、盆地内に分水界がある。

〔賀陽山地〕 竹荘盆地―宇甘川筋の南で、賀陽町域に広がりをもつ小起伏山地で、高梁図幅内にその大部分がある。全体としては350mから450m前後の定高性のある尾根が波浪状に連なる高原状山地である。主として花崗岩類よりなる。竹荘盆地の南に聳える矢倉山(587m)は残丘的な高みで、中起伏山地に区分される。

〔豊野山地〕 宇甘川の北にあり、大平山の東麓を北東―南西方向にのびる谷から東の、小起伏山地をいう。主として花崗岩類と流紋岩類からなり、400―450mに定高性のある尾根が認められるが、流紋岩類よりなる部分では、一段低く550―6600mの高みをつくっている。

〔南皆部山地〕 皆部の南東に当る山地で四峰山(513.6m)を中心とし、北房町・有漢町の町境を南にのびて陣が畝山(484.3m)に至る中起伏山地をいう。450m前後から500mにかけての高さに山頂が揃う。古生層と一部中生層からなる。井殿、菅野、野々倉、能楽は石灰岩台地である。台地面は標高350m―400mであり、ドリーネの発達する小起伏面である。井殿の西には鐘乳穴(かなちあな)と呼ばれる鐘乳洞がある。

〔飯の山山地〕 南皆部山地の東に位置し、飯の山(508.9m)を中心とし落合町・北房町の町境付近、および加茂川町・有漢町の町境付近から東へ続く山地をいう。標高400mから450m前後の侵蝕小起伏面が波浪状に広がる。主として小起伏山地であるが、備中川沿いは中起伏山地となる。構成地質は古生層を主とし、一部中生層がみられる。

〔北皆部山地〕 皆部の北方に位置し、備中川と関川とに挟まれた中起伏山地をいう。古生層とかんらん岩、変斑れい岩などよりなる。一部、450―500mの高さに小起伏面が認められる。皆部のすぐ北の城山は石灰岩台地で、台地面は400m前後の高さにあり、ドリーネをもつ。なおこの山地の東には、関川の谷と落合低地とに限られて古生層の山地(西落合山地)がある。

〔皆部低地〕 備中川に沿う谷底平野を、その周辺の第三系の小起伏丘陵地をも含めて、皆部低地とよぶ。北房町から落合町にまたがっている。備中川支流中津井川流域の低地をも含める。備中川をつくる沖積低地の海拔高度は、備中川が山地から離れる上皆部で約200m、中津井川上流横山付近で220mであり、中津井川合流

点では約160 mとなる。その合流点付近から、谷底平野は幅を広げ、関川合流点で海拔約140 m、図幅縁の畝付近で約120 mとなる。両側山地からの溪流の出口では扇状地や崖錐が形成されており、一方沖積低地は段丘化している部分もある。丘陵地のほとんどは、比高50 mたらずのまろやかな小起伏丘陵で、定高性をもつ。たとえば上水田付近で約200 mに尾根が揃い、宮地付近では170-180 mの丘陵となる。丘陵の高度は上流から順次低くなる。丘陵地を構成する中新統は未固結の砂層、礫層、泥岩層で、泥岩中に貝化石を含んでいる。

岡山大学教育学部 高橋 達郎

調査協力者 ( 赤木 啓子 )  
( 城井田 二郎 )

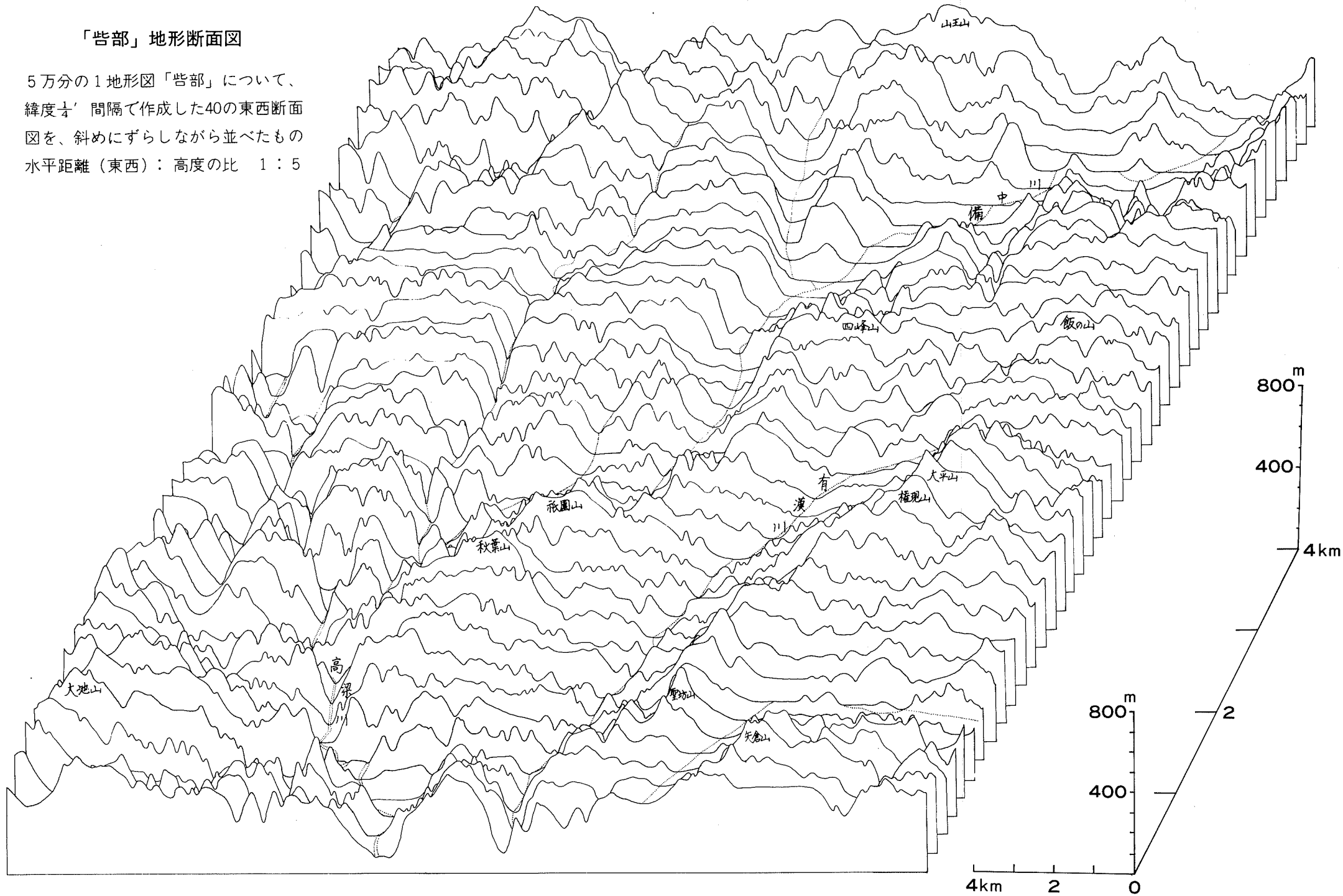
・参考文献(本文中で直接言及したもののみを挙げる)

三野与吉(1942):地形原論—岩石床説より観たる準平原論。古今書院

赤木祥彦(1961):中国山地のペディメント。地理学評論 34巻2号

# 「皆部」地形断面図

5万分の1地形図「皆部」について、  
緯度 $\frac{1}{4}'$  間隔で作成した40の東西断面  
図を、斜めにずらしながら並べたもの  
水平距離（東西）：高度の比 1：5





## Ⅱ 表層地質

### 1. 表層地質概説

域内の地質は、三郡変成帯に属する低変成度の結晶片岩類、非変成古生層、これら諸岩類中に進入した夜久野進入岩類、蛇紋岩類を基盤とし、上記諸岩類を不整合（一部断層関係）におおう上部三疊紀層、いわゆる硯石層、白亜紀の流紋岩類や安山岩類などの火山性岩石、石英閃緑岩や花崗岩などの深成岩類が分布しており、これら深成岩の進入によって接触変成作用を受けて幅数100mにわたってホルンフェルス化している。さらに新第三紀層、洪積層および沖積層が上記諸岩類を不整合におおって域内各地に分布している。

三郡変成岩類は域内中央部から北東部の落合町・有漢町・加茂川町にかけて分布するものと、域内西部の阿哲石灰岩層群の下部の高梁川沿いの方谷、草間付近や方谷付近に分布するものがある。緑色片岩、黒色片岩を主とする地層よりなり、波長2ないし5kmの褶曲を繰返し、一部過褶曲構造を示す地域も認められる。域内中央部の有漢町周辺に分布するものは、白亜紀末の花崗岩類による接触変成作用を受けて幅数100mにわたってホルンフェルス化している。

非変成古生層は、阿哲台（新見市井倉・草間・豊永）、皆部、井殿周辺に分布する石灰質岩石およびこの中に挟在する輝緑凝灰岩・チャート、域内中央部の四峯付近に分布する砂岩、域内北部の寺内付近に分布する粘板岩および砂岩がある。四峯付近の非変成古生層と三郡変成岩類との関係は漸移である。

夜久野進入岩類および蛇紋岩類は域内北部に分布し、三郡変成岩類中に進入しているが、三郡変成作用のえいきょうを受け、大部分片状化している。

三疊紀層は高梁川沿いの広瀬、方谷北東部の花木、下皆部北部に分布するが、三郡変成岩類と断層（一部不整合）関係で接している。

いわゆる硯石層は北房町中津井東部、落合町・有漢町・加茂川町境に分布し、古生層を不整合におおっている。

白亜紀火山岩類は域内北西部の美般湖周辺、西部の井倉野・法曹南部・中央部から東部にかけて広く分布する。火山岩類は流紋岩および安山岩質の火砕岩よりなるが、花崗岩類による進入接触により、幅数100mにわたってホルンフェルス化し

ている。

白亜紀深成岩類は域内南東部の有漢町・賀陽町付近に分布し、白亜紀火山岩類・三疊紀層、三郡変成岩類に対して接触変成作用を及ぼしており、新第三紀層や洪積層に対して不整合におおわれている。

新第三紀層は域内南東部の賀陽町周辺、中央部の高梁市中井、北房町中津井付近に分布しているほか、域内各地に点在しており、礫岩・砂岩・泥岩の互層よりなる。

洪積層（山砂利層）は高梁市巨瀬町の実相寺・仲畝付近および高梁市中井の柴倉付近にみられる。

沖積層は高梁川・備中川・有漢川沿いに細長く分布している。

## 2. 表層地質各論

### (1) 未固結堆積物（沖積世）

ア・礫・砂および泥

高梁川・備中川・有漢川沿いに発達し、とくに備中川沿いに広い分布を示す。一般に地表付近は砂および粘土よりなるが、それ以深は砂混りの砂・シルトよりなる。この堆積物の深さはボーリング資料がないので不明である。

イ・礫がち堆積物（洪積世）

域内南部の高梁市巨瀬町仲畝・実相寺、有漢町元安付近に小露出がみられ、径2ないし30cmの円礫と粗粒砂よりなり、礫種は花崗岩・石英閃緑岩・チャート・流紋岩等よりなる。

ウ・砂屑物（崖錐堆積物、洪積世）

域内南部の高梁市川面町・上秋町付近に分布する。主として風化花崗岩の崩落堆積物よりなり、半風化の亜角礫状花崗岩（径5ないし30cm）とマサよりなる。

### (2) 半固結堆積物（新第三系）

域内南部の賀陽町新町周辺、北部の備中川沿いの北房町中津井・上水田・関にかけて細長く分布するほか、阿哲台東部の棚尾、高梁市中井町西方市場付近にみられる。一般に礫岩（径5ないし10cm）・砂岩・泥岩の互層よりなるが、基底層は礫岩にとみ、上部は泥岩にとむようになる。

### (3) 固結堆積物（石炭系・二疊系・三疊系・白亜系）

#### ア．泥質岩（二疊系）

域内北部の新見市豊永町寺内付近に分布するもの、佐伏川沿いの石灰質岩中に含まれるものがある。一般に黒褐色の粘板岩を主体とするが、厚さ0.1ないし1 m程度のシルト岩を挟在することが多い。

#### イ．泥質岩・砂質岩互層（三疊系）

域内北部の北房町丸山・西尾付近、西部の高梁市中井町花木、南西部の広瀬・十名付近にみられ、中粒砂岩および頁岩の互層よりなり、部分的に薄い石炭層（一部石炭化）を挟在する。北房町および花木に分布するものは古生層と断層関係で接している。

#### ウ．砂質岩（石炭系・二疊系・三疊系）

石炭系のは域内西部の井原・姫原付近に広く分布する。細粒ないし中粒の淡灰色ないし淡緑灰色の砂岩よりなり、この上位に石炭紀石灰岩がかさなる。

二疊系のは域内北部の寺内付近にみられ、厚さ50～150 mの細粒砂岩よりなるものと、中央部四峯南部にみられる粗粒砂岩が分布する。

三疊系のは域内南部の賀陽町ケサカケ付近にみられ、中ないし粗粒の砂岩よりなるが、白亜紀花崗岩の接触変成作用により大部分ホルンフェルス化している。

#### エ．礫質岩（白亜系）

域内北東部の井殿北部から三飛峠付近にかけて広く分布するいわゆる硯石層（関門層群）の礫岩で、石灰岩の亜円礫を含む特徴的な礫質岩で、基質部は緑色ないし赤褐色の泥質岩よりなるが、厚さ数m～10数mの泥質岩・シルト質岩を数層挟在する。この堆積物は三郡変成岩類や二疊系の石灰岩や砂質岩を不整合におおひ、白亜紀の火山性岩石の基底部を形成する。白亜紀深成岩類（石英閃緑岩）に近接した部分では、接触変成作用を受けてホルンフェルス化している。

#### オ．石灰質岩（石炭系・二疊系・白亜系）

石炭系・二疊系の石灰質岩は新見市井倉・草間・豊永周辺・北房町皆部・井殿周辺に広く分布する。井倉南部谷合付近では三郡変成岩類の緑色片岩の上位にかさなるが、下限付近の石灰質岩は三郡変成作用によって片状石灰岩に移化している。

白亜系の石灰質岩はいわゆる硯石層（関門層群）に属するもので、高梁川沿いの広石から井倉野にかけて分布する。岩質は石灰岩質礫岩で、亜円礫状の石灰質岩

と石灰質の基質よりなり、一部赤色の凝灰質泥岩を挟在する。

#### カ．チャート（二疊系）

域内北部の樽見付近や、中央部の有漢町四峯付近にみられる。樽見付近のものは、厚さ数10mで、石灰質岩中に挟在する。四峯付近のものは、砂質岩（二疊系）の上位にかさなる。

#### キ．輝緑凝灰岩（石炭系）

井倉北西部の石灰質岩中に挟在するものと、中央部有漢町の三郡変成岩の上位にくるものがあるが、いずれも淡緑ないし緑色を呈するが、有漢町のものは一部三郡変成作用により片状化している。

#### (4) 火山性岩石（白亜系）

火山性岩石は流紋岩質岩と安山岩質岩とに分けられるが、流紋岩質岩の上位に安山岩質岩がかさなる。

#### ア．流紋岩質（白亜系）

流紋岩質岩は域内北部の美穀湖周辺、域内南西部の法曹から遠原周辺、中央部の祇園山・秋葉山周辺、津々周辺、南東部の神子山・陣山周辺・和田周辺に分布するものがある。これら流紋岩質岩はいずれも白亜紀の流紋岩質火砕岩類よりなり、古生界の諸岩類を不整合におおうが、安山岩質岩や新第三紀層・洪積層などに不整合におおわれる。また、域内南部や南東部にかけて分布するものは、白亜紀の深成岩類（石英閃緑岩・花崗岩）の進入接触を受け、接触部付近ではホルンフェルに変わっている。

#### イ．安山岩質岩（白亜系）

安山岩質岩は域内北西部の大峠・灰貝周辺、南西部の飯部・田井周辺、南部の聖坊山周辺に分布する。大部分安山岩質火砕岩よりなり、流紋岩質岩を不整合におおって分布するが、聖坊山周辺のもの、飯部付近のものは白亜紀深成岩類の進入接触によりホルンフェルス化している。

#### (5) 深成岩類（古生界・白亜系）

古生界に属する深成岩類は、域内北部の高釣部・興法地および湯川付近に分布する斑れい岩質岩と、興法地北方に分布する蛇紋岩質岩がある。白亜系に属する深成岩類は、域内中央部から南部にかけて広く分布する石英閃緑岩類と花崗岩類がある。

#### ア．斑れい質岩（古生界）

域内北部の高鈎部・興法地・湯川を結ぶ線上を西北西—東南東方向に組長く分布する岩体で、夜久野侵入岩類に属するもので、優白質部と優黒質部が縞状を呈し三郡変成岩類の地質構造に支配された進入様式をとるが、北限は断層によって古生界の堆積岩類や蛇紋岩と接しているが、片状を呈し、縞構造の発達も顕著で、三郡変成末期の進入岩と考えられている。また、石英閃緑岩の進入接触によって、一部ホルンフェルス化している。

#### イ．蛇紋岩（古生界）

斑れい岩質岩の北部（一部南部に小露出）に分布し、大部分蛇紋岩質岩よりなり、中心部はカンラン岩質となり、西限付近は片状化して滑石片岩に変化して、この岩体も三郡変成末期の進入と考えられる。

#### ウ．石英閃緑岩質岩（白亜系）

域内南部の権現山を中心に分布するもの、茶屋付近に分布するもののほか、域内北部に小露出がみられる。このうち権現山を中心に分布するものは石英閃緑岩ないし花崗閃緑岩質であり、茶屋付近のものは石英閃緑岩質、北部のものは石英モンテジューヌ岩質である。これら石英閃緑岩質岩は、古生界の諸岩類、いわゆる硯石層、白亜紀火山性岩石に対して接触変成作用を及ぼしているが、白亜紀花崗岩質岩と接する部分は花崗岩質岩の進入接触を受けてホルンフェルス化している。

#### エ．花崗岩質岩（白亜系）

域内南部の高梁市巨瀬町、上房郡賀陽町周辺に広く分布しており、古生界・中生界の諸岩類に接触変成作用を及ぼしており、接触部から幅数100mの範囲の岩体をホルンフェルス化している。

岩質は中ないし粗粒の角閃石・黒雲母花崗岩がその主体を占めるが、南東部の山付近のものは細粒で、アプライト質のものが分布する。

#### (6) 変成岩類（古生界・白亜系）

域内に分布する変成岩類は、三郡変成岩類（古生界）とホルンフェルス（白亜系）とに分けられる。三郡変成岩類は低変成度の結晶片岩よりなり、方谷、井倉を中心に分布するもの、域内中部から東部の有漢町から加茂川町周辺に分布するもの、域内北部の高鈎部から東北部の落合町南部にかけて分布するものである。ホルンフェルス

ルスは白亜紀石英閃緑岩、花崗岩類の接触部に幅数100mにわたって形成されている。

#### ア. 結晶片岩（古生界）

域内に分布する結晶片岩は、三部変成帯に属する低変成度の結晶片岩であるが、一般に片状構造が発達し、微褶曲構造、線構造および劈開面の発達も顕著である。この結晶片岩は波長1～数kmの背斜・向斜の繰返しがみられる。

方谷・井倉付近のものは、緑色片岩を主体とし、黒色片岩を数層挟在する。また、井倉付近では、この緑色片岩の上位に厚い石灰質岩が整合関係でかさなるが、石灰質岩の下部付近は三郡変成作用を受けて、片状石灰岩に移化している。

皆部北西部の高釣部から北東部の興法地にかけて分布するものも、緑色片岩を主体とし黒色片岩を挟在するが、この中に進入した斑れい岩質岩も三郡変成作用によって片状化し、片麻状斑れい岩に移化している。

また、落合町南部から上宍・加茂川町にかけて分布する結晶片岩は、黒色片岩を主体とし、緑色片岩やその他の片岩（珪質片岩）を挟在するが、白亜紀深成岩類と接する付近は幅数100mにわたってホルンフェルス化している。

#### イ. ホルンフェルス

白亜紀の石英閃緑岩・花崗岩の分布する地域では、これら深成岩類に進入された古生界の堆積物、深成岩、結晶片岩、中生界の堆積物、火山性岩石は接触変成作用を受け、接触部から幅100～数100mにわたってホルンフェルス化し、堅硬緻密な岩石に変化しており、石灰質岩石も晶質石灰岩に変化し、スカルンおよび接触交代鉱床を形成している。

また、白亜紀の石英閃緑岩は花崗岩の進入接触により接触変成作用を受け、角閃石・輝石の一部はアクチノ閃石や黒雲母に変化し、ホルンフェルス化している。

岡山大学理学部 光野千春

### Ⅲ 土 壤

#### 1. 山地、丘陵地の土壤

##### (1) 概 説

本地域の山地、丘陵地の土壤は、母材、堆積様式、断面形態などにより、5土壤群、11土壤統群に大別され、さらに21土壤統に細分した。

土壤群	土 壤 統 群	土 壤 統
未 熟 土	粗粒残積性未熟土壤	1 統
	残積性未熟土壤	1 統
褐色森林土	乾性褐色森林土壤	4 統
	乾性褐色森林土壤（赤褐系）	2 統
	褐色森林土壤	7 統
	褐色森林土壤（赤褐系）	1 統
	褐色森林土壤（暗色系）	1 統
黒 色 土	淡色黒ボク土壤	1 統
	黒ボク土壤	1 統
赤 黄 色 土	赤色土壤	1 統
グ ラ イ 土	グライ土壤	1 統

##### (2) 各 論

###### ア．粗粒残積性未熟土壤

南部の深層風化した花崗岩地帯特に高梁市巨瀬町を中心とする地域に局所的に分布し、かなり以前に治山事業が実施され、地表面は比較的安定している。

(ア) 丸山2統 (Mar 2) : 尾根筋または山腹の凸型斜面に点的に分布し、土壤の表面侵蝕は弱度で、地力は若干思われた砂質の受蝕土壤である。アカマツの生育は比較的良いが、常緑広葉樹等の導入により、林相および地力改善と地表の保護をはかる措置が望ましい。

###### イ．残積性未熟土壤

中南部地域に分布する深層風化した流紋岩地帯の山地に点的に出現する。

(ア) 三石2統 (Mit 2) : 尾根筋および山腹の凸型斜面に局所的に分布し、

土壌の表面侵蝕は弱度で、地表面は比較的安定し、地力は若干思われた埴質～微砂質の受蝕土壌である。アカマツの生育はかなり良いが、林相の改善をはかるため、常緑広葉樹の導入が望ましい。

#### ウ．乾性褐色森林土壌

母材・土性・断面形態の相違により、次の4統に区分した。

(ア) 佐良山1統(Sa1)：流紋岩地域の山腹上部から中部にかけて広く分布し、土性は埴質～微砂質で土壌の構造は細粒状～粒状の乾性土壌の特徴が見られ、A層は一般に薄く、B層以下は堅密である。尾根筋の一部を除き、アカマツの生育はかなり期待できる。また、シイタケ原木として利用できる、クヌギ、ナラ類等の広葉樹の導入が望ましい。クヌギは若干土壌条件の良好なところを選定すべきである。

(イ) 貴布禰1統(Ki1)：安山岩および花崗岩および花崗岩地域の尾根筋や山腹斜面に広く分布し、土性は砂質～壤質で、アカマツの生育は比較的良い。また、土壌条件によっては、クヌギの植栽可能地がかなりある。

(ウ) 森上山1統(Mo1)：黒色準片岩、緑色準片岩、粘板岩を母材とする古生層山地の山腹上部に広く出現する乾性土壌である。土性は一般に壤質で角礫を含み、理化学性は比較的良く、尾根筋の一部を除き、アカマツの生育はかなり良い。BC型土壌には、ヒノキ、クヌギ等の植栽が可能である。急斜面は山腹崩壊の危険があるので、これを防止するため、深根性の有用広葉樹の造林も考えられる。

(エ) 箕地1統(Mi1)：第三紀層および第四紀層地帯における丘陵性山地の山腹上部に出現する乾性土壌である。A層は浅く、円礫を含むが、埴質なため、理化学性は一般に悪い。アカマツの生育はやや良好であるが、林相の改善と地力の増進あるいはシイタケ原木の生産をはかるため、ナラ、クヌギ等の有用広葉樹の導入が望ましい。

#### エ．乾性褐色森林土壌(赤褐色)

吉備高原台地の広尾根周辺の緩斜面にかなり広く分布し、赤褐色(5YR~7.5YR)の色相を呈する乾性土壌である。

(ア) 仙随山1統(Sez1)：花崗岩地帯の山腹上部の緩斜面に出現するrBA rBB型土壌である。A層は薄く、腐植の影響により暗褐色～褐色を呈するが、B



層は明褐色～橙色を呈し、土性は一般に埴質で、通気性に乏しく、理化学性は良くない。アカマツの天然林が多く見られ、一般に生産性は低い。林地土壌の改善をはかるためには、有用広葉樹の導入が望ましい。rBc型土壌にはクヌギ、ヒノキ等の植栽が可能である。

(イ) 八塔寺山1統(Ha1)：流紋岩、第三紀層または第四紀層堆積物を母材とする粘土質のrBB型土壌で、台地周辺および山腹緩斜面に広く分布する。赤色風化の影響を弱度に受け、B層は橙色～黄橙色を呈し、土性は埴質～微砂質で堅密である。林木の生育には適さないが、アカマツ天然林と有用広葉樹との二段林施業により林地土壌の改善が望ましい。

#### オ. 褐色森林土壌

(ア) 佐良山2統(Sa2)：佐良山1統と同じ地域の山腹中部～下部に広く分布するB<sub>D</sub>(d)型土壌である。土性は一般に埴質であるが、角礫を含み、理化学性はキヤ良好である。ヒノキの生育に適す。

(イ) 佐良山3統(Sa3)：佐良山2統と同じ地域の山腹下部および谷筋の崩積土に出現するB<sub>D</sub>型土壌で、A層はかなり発達し、水分条件にも恵まれ、スギの植栽が可能である。

(ウ) 貴布禰2統(Ki2)：貴布禰1統と同じ地域の山腹中部～下部に広く分布するB<sub>D</sub>(d)型土壌である。土性は砂質～壤質で、角礫を含み、理化学性は良い。ヒノキの生育はかなり期待できるが、土壌が粗しうのため、急斜面では山腹崩壊の危険が高く、崩壊防止のため深根性の有用広葉樹の造林も考えられる。

(エ) 貴布禰3統(Ki3)：貴布禰2統と同じ地域の山腹下部および谷筋の崩積土に出現するB<sub>D</sub>型土壌で、A層はよく発達し、礫を多く含み、水分条件もよく理化学性は良好で、スギの生育はかなり期待できる。

(オ) 森上山2統(Mo2)：森上山1統と同じ地域の山腹中部～下部の匍行土に広く分布するB<sub>D</sub>(d)型土壌である。土性は壤質で角礫に富み、構造はかなり発達し、土壌の理化学性は良く、スギ、ヒノキ特にヒノキの生育に適し、地位指数は16前後である。

(カ) 森上山3統(Mo3)：森上山2統と同じ地域の山腹下部および谷筋の崩積土に出現するB<sub>D</sub>型土壌である。礫質でA層はよく発達し、水分条件に恵まれ、

理化学性は良好である。スギの地位指数は18~19で生育はかなり良好である。

(キ) 箕地2統(Mi2)：箕地1統と同じ地域の山腹中部~下部に分布するB<sub>D</sub>(d)型土壌である。土性は埴質であるが、円礫を含み、A層は10cm前後で、構造もかなり発達し、ヒノキの生育に適す。

カ．褐色森林土壌（赤褐色系）

北房町地内にかかなり広く分布する中生代硯石三疊紀層の地域内に広範囲に見られる。

(ア) 仙随山2統(Sez2)：同地域内の山腹中部から下部にかけて出現するrB<sub>D</sub>(d)型土壌である。A層は10cm前後で、暗赤褐色~褐色を呈し、団粒状構造も見られるが、一般の褐色森林土壌に比し、A層の発達はやや劣り、B層は明褐色~明赤褐色を呈し、埴質で礫を含むが堅密である。生産力は褐色森林土壌より若干劣るが、ヒノキの造林は可能である。

キ．褐色森林土壌（暗色系）

(ア) 井倉統(Iku)：石灰岩地帯の山腹斜面から山脚にかけて局所的に出現するDR(d), DR(w)型土壌で、暗赤色を呈し、埴質である。置換性石灰を多く含み、弱酸性で、A層はかなり発達するが、B層以下は堅密で、理化学性は一般に悪い。ヒノキの植栽は可能である。

ク．淡色黒ボク土壌

(ア) 聖望統(Sei)：黒色土壌の分布する地域の山腹下部に局所的に出現するℓBLD型土壌である。A<sub>1</sub>層は腐植の滲透により暗褐色を呈し、構造はやや発達するが、A<sub>2</sub>層は黒褐色を呈し、構造の発達は乏しい。匍行土にはヒノキ・崩積土にはスギの植栽が可能である。

ケ．黒ボク土壌

(ア) 土橋統(Tsu)：山腹上部の安定した緩斜面および山麓部に局所的に出現するBLD(d), BLD(m)型土壌である。黒色~黒褐色の層が厚く、土性は埴質~微砂質で、構造の発達は一般に乏しい、山腹上部の残積土、山麓部の緩斜面には、生育の良いアカマツが見られるが、匍行土においてはヒノキの植栽が可能で、地位指数は14前後である。

コ 赤色土壌

(ア) 種松山統 (Tan) : 山腹上部の安定した緩斜面に出現し、赤色風化された粘質な土壤で、A層は薄い、B層以下は堅密で、理化学性は悪く、林木の生育には適さない。人為的な施肥耕耘を加えて、収益性の高い畑地、樹園地等として利用されることも考えられる。

サ・グライ土壤

(ア) 吉川統 (Yos) : 広い谷部の平坦面に局所的に出現するグライ層をもつ土壤で、地下水の影響により灰黄色を呈し、40~50 cmの深さに班鉄がしばしば認められ、湿地を好むイヌツゲ、カヤツリグサ類、イ類が見られる。この土壤は林木の生育には適さないが、排水溝の設置により一部の耐水性有用樹木の植栽が可能である。

岡山県林業試験場 木 本 弘 一 郎

2. 台地および低地の土壤

(1) 概 説

本地域の土壤は、その断面形態、母材、堆積様式によりつぎの10土壤群、2土壤統群に大別され、さらに35土壤統に細分された。

土 壤 群	土 壤 統 群	土壤統
黒 ボ ク 土	厚層多腐植質黒ボク土壤	1 統
	表層腐植質黒ボク土壤	3 統
多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土壤	3 統
黒ボクグライ土	腐植質黒ボクグライ土壤	1 統
褐 色 森 林 土	細粒褐色森林土壤	1 統
	中粗粒褐色森林土壤	1 統
	礫質褐色森林土壤	1 統
灰 色 台 地 土	細粒灰色台地土壤	3 統
	中粗粒灰色台地土壤	1 統
	礫質灰色台地土壤	1 統
グライ台地土	細粒グライ台地土壤	3 統

黄色土	細粒黄色土壤	2	統
	中粗粒黄色土壤	1	統
	礫質黄色土壤	2	統
	細粒斑紋黄色土壤	1	統
	中粗粒斑紋黄色土壤	1	統
暗赤色土	暗赤色土壤	1	統
褐色低地土	中粗粒斑紋褐色低地土壤	1	統
	礫質斑紋褐色低地土壤	1	統
灰色低地土	中粗粒灰色系灰色低地土壤	1	統
	礫質灰色系灰色低地土壤	1	統
	細粒灰褐色系灰色低地土壤	1	統
	中粗粒灰褐色系灰色低地土壤	2	統
	礫質灰褐色系灰色低地土壤	1	統

## (2) 各 論

### ア. 黒ボク土

本土壌群は、高原台地の緩傾斜面または波状平坦地に分布し、表層を覆っている非固結火成岩を母材とする腐植層の厚さは普通 25~50cm であるが、50cm 以上のものもみられる風積性土壤である。

#### (ア) 厚層多腐植質黒ボク土壤

全層の腐植含量 10% 以上で、土性は強粘質または粘質で、台地上の波状平坦地にわずかに分布し、畑地として利用され生産性は中位である。畑谷統が属する。

#### (イ) 表層腐植質黒ボク土壤

表層の腐植含量 5~10% で、土性は粘質または壤質で台地の波状平坦地または丘陵緩傾斜面に分布し、畑地、草地として利用され生産性は低位である。俵坂統、椽統、大川口統が属する。

### イ. 多湿黒ボク土

本土壌群は、主として沖積低地または高原台地上の平坦凹地に分布し、表層を覆っている非固結火成岩を母材とする腐植層の厚さは普通 25~50cm であるが、50cm 以上のものもみられ、上層中に斑紋が見られる水積または風積性土壤である。

(ア) 表層腐植質多湿黒ボク土壤

表層の腐植含量5~10%で、土性は粘質~砂質で沖積低地または高原台地上の平坦地に分布し、水田として利用され生産性は低位である。三輪統、檜木沢統、市茂田統が属する

ウ。黒ボクグライ土

本土壌群は、主として谷底地、沖積低地または高原台地上の平坦地に分布し一般に地下水位が高く排水不良で下層がグライ化している。表層を覆っている非結火成岩を母材とする腐植層の厚さは普通25~50cmであるが、50cm以上のものもみられ、土層中に斑紋がみられる水積性土壤である。

(ア) 腐植質黒ボクグライ土壤

表層の腐植含量5~10%で、土性は粘質で谷底地、沖積低地または高原台地の平坦地に分布し、水田として利用され生産性は中~低位である。岩屋谷統が属する。

エ。褐色森林土

本土壌群は、主として高原丘陵の傾斜面に分布し、暗褐色の表層下に黄褐色の層をもち、0~60cm以下に礫層をもつ場合もある。崩積または残積性土壤である。

(ア) 細粒褐色森林土壤

土性が強粘質または粘質で、高原丘陵の傾斜面に分布し、畑地、草地として利用され生産性は中~高位である。上統が属する。

(イ) 中粗粒褐色森林土壤

土性が壤質で、高原丘陵の傾斜面に分布し、畑地として利用され、生産性は中位である。裏谷統が属する。

(ウ) 礫質褐色森林土壤

0~60cm以下に礫層をもち、土性は粘質で丘陵または山麓傾斜面にわずかに分布し、畑地として利用され、生産性は中位である。岩屋統が属する。

オ。灰色台地土

本土壌群は、主として台地上または山間棚田に分布し、全層またはほぼ全層が灰色または灰褐色を呈し、斑紋をもち、0~60cm以下に礫層を持つ場合もある崩積または残積性土壤である。

(ア) 細粒灰色台地土壌

土性が強粘質または粘質で、丘陵台地または山間棚田に広く分布し生産性は中位である。小向統，喜久田統，早稲原統が属する。

(イ) 中粗粒灰色台地土壌

土性が壤質または砂質で、丘陵台地または山間棚田に広く分布し生産性は中～低位である。長笹統が属する。

(ウ) 礫質灰色台地土壌

0～60cm以下に礫層をもち、土性は粘質または壤質で山間棚田に分布し生産性は中～低位である。塩田統が属する。

カ．グライ台地土

本土壌群は、主として台地上または山間棚田に分布し、表層から少なくとも80cm以内に青灰色のグライ層をもつ崩積または残積性土壌で、湧水面は50～70cmである。

(ア) 細粒グライ台地土壌

土性が強粘質または粘質で、丘陵台地または山間棚田に広く分布し、湿田または半湿田で生産性は低位である。吉井統，滝川統，早稲原統が属する。

キ．黄色土

本土壌群は、主として丘陵台地の傾斜面または山間棚田に分布し、畑地は暗色を呈しない表層下に黄色のB層をもつ残積性土壌で、水田は暗色を呈する作土下に黄褐色のB層をもち、斑紋が認められ0～60cm以下に礫層をもつ場合もある残積または崩積性土壌である。

(ア) 細粒黄色土壌

土性が強粘質または粘質で、丘陵台地の傾斜面に広く分布し、畑地、草地として利用された生産性は中～高位である。八久保統・観木山統が属する。

(イ) 中粗粒黄色土壌

土性が壤質で、丘陵台地の傾斜面に分布し、畑地、樹園地、桑園として利用され生産性は低位である。大代統が属する。

(ウ) 礫質黄色土壌

0～60cm以下に礫層をもち、土性は粘質または壤質で山麓傾斜面にわずかに分

布し、畑地、桑園として利用され生産性は低位である。形上統、菅出統が属する。

(エ) 細粒斑紋黄色土壤

土性が強粘質または粘質で、斑紋をもつ崩積性土壤で、丘陵台地または山間棚田に分布し生産性は中～高位である。新野統が属する。

(オ) 中粗粒斑紋黄色土壤

土性が壤質で、斑紋をもつ崩積性土壤で、丘陵台地または山間棚田に分布し生産性は中～低位である。都志見統が属する。

ク・暗赤色土

本土壌群は、主として台地上に分布し、暗色を呈しない表層下に暗赤色のB層をもつ石炭岩を母材とする残積性土壤である。

(ア) 暗赤色土壤

土性が強粘質で、台地上の波状平坦地、山頂傾斜面に分布し、畑地、樹園地、草地として利用され生産性は高位である。湯島統が属する。

ケ・褐色低地土

本土壌群は、主として沖積低地に分布し、全層又はほぼ全層が黄褐色を呈し0～60cm以下に砂礫層をもつ場合もある水積性土壤である。

(ア) 中粗粒斑紋褐色低地土壤

土性が壤質で斑紋が認められ、沖積平野に広く分布し、生産性は中位である。荻野統が属する。

(イ) 礫質斑紋褐色低地土壤

0～60cm以下に砂礫層をもち、土性は壤質または砂質で斑紋が認められ、沖積平野にわずかに分布し畑地として利用され生産性は低位である。八口統が属する。

コ・灰色低地土

本土壌群は主として河川沿いの沖積地に分布し、全層またはほぼ全層が灰色または灰褐色を呈し、斑紋をもち、0～60cm以下に砂礫層をもつ場合もある水積性土壤である。

(ア) 中粗粒灰色系灰色低地土壤

土色が灰色で、土性は、壤質または砂質で、河川沿いの沖積地に分布し、老朽化が進み生産性は低位である。加茂統が属する。

(イ) 礫質，灰色系灰色低地土壤

土色が灰色で，0～60 cm以下に砂礫層をもち，土性は壤質または砂質で沖積平野に分布し老朽化が進み生産性は低位である。追子野木統が属する。

(ウ) 細粒灰褐色系灰色低地土壤

土色が灰褐色で，土性は強粘質または粘質で，沖積平野に分布し生産性は高位である。諸橋統が属する。

(エ) 中粗粒灰褐色系灰色低地土壤

土色が灰褐色で，土性は壤質または砂質で河川沿いの沖積地にわずかに分布し，老朽化が進み生産性は中～低位である。安来統，納倉統が属する。

(オ) 礫質灰褐色系灰色低地土壤

土色が灰褐色で，0～60 cm以下に砂礫層をもち，土性は壤質または砂質で河川沿いの沖積地にわずかに分布し，老朽化が甚だしく生産性は低位である。松本統が属する。

岡山県立農業試験場 平 岡 正 夫



## IV 傾斜区分

傾斜区分図の作成方法は次の通りである。作業基図としては5万分の1地形図を用い100mごとの計曲線の間隔を、傾斜尺度定規を滑らせながら計測し、7段階（3°未満、3°-8°、8°-15°、15°-20°、20°-30°、30°-40°、40°以上）に区分した。したがってこの傾斜区分図は、原則的には100m計曲線間の平均傾斜を表現した図であるといえる。ただし、等高線間隔が著しく広い場合や、100mごとの計曲線の間でも、明確な傾斜変換が認められる場合などは、20mごとの主曲線間隔について傾斜尺度を用いて区分した。計測に際しては、尾根と谷とに挟まれたひとまとまりの斜面を単位とするよう留意したが、細かい山ひだの所では、小さな斜面は無視せざるを得なかった。計測単位としての斜面についての見方、くくり方は、作業者によって差がある。地形図に崖として表現されているところは、必ずしも正しい広がりを表わしていないきらいがあるが、40°以上の階級として区分した。

本図幅内で急な傾斜地が連続するところは、吉備原山地を掘鑿して流れる高梁川およびその支流の小阪部川、佐伏川などの谷壁斜面である。高梁川は、本図幅内では川面市場付近でやや谷底平野を広げ、その谷壁斜面は麓屑面的な斜面を含むので緩斜面となる部分があるが、それを除いては、谷底平野をもたない欠床谷であり、30°以上の谷壁斜面が連続し、40°を越す極急斜面も多い。とくに阿哲石灰岩台地を掘鑿する部分には極急斜面があり、井倉峽をはじめとし見事な断崖絶壁を眺めることができる。大沙利谷や白谷など、台地縁を切り込む支谷も急斜面をもつ。

阿哲石灰岩台地を、豊永台と草間台に両断する佐伏川も下湯川より下流は30°以上の急斜面が連続し、上野の西では40°を越す極急斜面となる。

小阪部川に沿っては、小阪部ダム一位原間に極急斜面がみられ、その直上流の美敷湖の両岸も30°以上の急斜面が多い。

旭川水系に属する備中川の河谷では、比較的広い谷底平野が開けており、その河谷沿いに第三紀層の丘陵が存在することもあって、その両側斜面は、高梁川水系のそれと較べて緩やかである。しかし、その支谷が山地内に激しく谷頭侵蝕を進めている部分や、豊永谷の東斜面、弧立した小規模な石灰岩台地の斜面などでは、30

以上の急斜面がみられる。

本図幅内で $3^{\circ}$ 以下の平坦地は少ない。わずかに河谷内の狭小な谷底平野がこれにあたるにすぎない。小阪部川では真壁付近より下流に谷底平野が開ける。高梁川はほとんど欠床谷であり、井倉付近と川面市場付近に極めて狭い谷底平野がみられるにすぎない。有漢川沿いでは、垣元付近より下流に狭い谷底平野が連続する。備中川沿いは谷底平野が連続しており、中津井川を合せる皆部付近から下流では幅を拡げ、本図幅内で最もまとまった平坦地となっている。宇甘川沿いでは、竹荘盆地に平坦地が広がるが、以下は狭い谷底低地が続く。

本図幅内で緩傾斜地が最も多いところは阿哲石灰岩台地上である。 $3^{\circ}$ 以下の平坦地をも含んでいる。高梁川の谷底から極急斜面をつづら折りに登り切ると、対照的に台地上には緩傾斜地が広がる。 $8^{\circ}$ 以下の緩傾斜地が続くところが多い。しかし台地面全部が緩傾斜というわけではない。石灰岩地域に挟まれて非石灰岩の地域が丘陵状の高みを作っており、その斜面は草間台では多くは $20^{\circ}-30^{\circ}$ である。東の豊永台の丘陵はやや傾斜が緩く、 $8^{\circ}-15^{\circ}$ 、 $15^{\circ}-20^{\circ}$ の階級の斜面をもつ。北房町のいるか台地、井殿、菅野、能楽や、皆部北東の城山など、孤立した小規模な石灰岩台地でも、その台地面は緩傾斜である。ただし、緩傾斜とはいっても、細かにみると台地上にはドリーネやウバーレの凹地が散在し、それらの傾斜は急なものも多い。しかし、それらの傾斜は短小であって地形図には面として表現されない場合が多い。したがって傾斜区分図にも表現されていない。

非石灰岩地域で、緩傾斜地が広がる場所は、竹荘盆地とその周辺である。竹荘盆地内で、山麓地として区分したところは固結度の低い砂層、シルト層、砂礫層より構成される新第三紀層の緩起伏地で、なだらかな尾根と浅い谷とが交互している。竹荘盆地周辺の小起伏丘陵とその東の豊野の小起伏山地にかけても、 $8^{\circ}-15^{\circ}$ の緩傾斜が続いている。

太平山山地の北西麓では、有漢川に沿う地域から巨瀬町にかけて、標高 $350-250\text{m}$ の小起伏山地が連なる。この山地も比較的緩傾斜のところが多く、とくに大平山・権現山の北西には $8^{\circ}-15^{\circ}$ の地域がある。これらの地域は主として花崗岩類より構成され、小起伏山地のうち「特に起伏の小さい地域」として区分されたところである。

備中川沿いの，新第三系よりなる小起伏丘陵も緩傾斜地より構成されている。

岡山大学教育学部 高 橋 達 郎

## V 水系・谷密度

水系図は次のような方法で作成された。5万分の1地形図で、等高線が高いほうにへこみをもつ部分を谷と認定し、その道筋をたどって水系図を描いた。この際、2.5万分の1の地形図で作成した水系図と空中写真とを参考にして補正を行っている。どの程度の等高線の屈曲までを谷と認めるかは、作業者によってある程度の差があり、恣意的な選択が入り込むことがあるのはやむを得ない。かつ作業基図である地形図の等高線の表現そのものにも差があるようである。したがって、この水系図から計算した谷密度の数値の利用は、同じ図幅内での相対的な比較程度に止めるのが妥当であろう。

谷密度は水系図に各辺40等分した方眼をかけ、各方眼を切る谷の数をかぞえ、その値を4区画ずつ合計して得た数で表らわした。

本図幅内の主要水路は高梁川と同水系に属する小阪部川・佐伏川・津々川（佐伏川支流）・有漢川など、および旭川水系に属する備中川・中津井川（備中川支流）・豊岡川・畑枝川（豊岡川支流）・宇甘川・湯山川（宇甘川支流）などである。

高梁川水系と旭川水系との分水界は、本地域では全体として高梁川寄りに偏っていると共に、大きくジグザグしている。備中川と宇甘川とが西にさかのぼって流域を広げており、その間に有漢川が東にむかって切り込んでいる。備中川支流の中津井川と佐伏川支流の津々川とは、津々の第三系の丘陵で水を分けている。備中川は昔部から中津井川を合せ、比較的広い谷底平野をもって東北東方向に流れ、図廓外の落合で旭川に合する。有漢川水系と豊岡川水系とは飯の山-太平洋の尾根をもって分水界としている。宇甘川は竹荘盆地南西端近くで、佐与谷上流と水を分けている。宇甘川上流が竹荘盆地内に浅い皿状の谷をつくって、緩勾配の流れとなっているのに対して、佐与谷は谷頭近くまで、現輪廻の侵蝕谷を深く刻みこんでいる。

高梁川は本図幅の西部を、南東方向へ流れている。地質構造の影響をうけながら、深く嵌入蛇行している。井倉付近と川面市場付近で小規模な谷底平野がみられる以外はほとんど欠床谷である。両岸は急斜面をなし、井倉峽を中心とし、峽谷が連続する。高梁川支流の小阪部川は、図幅の北西部で小阪部ダムによって堰塞され、峽谷内に人工湖（美穀湖）を湛える。佐伏川は阿哲石灰岩台地を深く掘り割って、台

地を豊永台と草間台に分けており，峡谷をなして流れ下って，津々川を合せてか高梁川に注ぐ。

谷密度が高い地域が広がるのは，高梁川が阿哲石灰岩台地をよぎってからの高川の両側山地で谷密度階級40-49, 50-59 によって占められる。とくに水系発達しているのは，大栢川流域で，谷密度60前後の値を示す。ここは高梁川水の壮年期的侵蝕の活発なところである。ついで，飯の山を中心として，豊岡川や枝川，有漢川や川関川などの最上流部で，高梁川・旭川両水系の背中合せとなる域が，谷密度が高く，50前後の値を示している。

谷密度の小さい地域は，阿哲石灰岩台地である。台地上にはカルスト地域特有求心的でドリ-ネ底にむかう，短小な水系がみられる。河谷に面する急斜面も，抗性のある石灰岩より構成されるので，谷の発達は顕著でない。阿哲石灰岩台地の密度はほとんど40未満であり，20-29の階級のところが広い。備中川の比的広い谷底平野を方眼に含む地域も，谷密度は低く，30未満の方眼のところが多い。竹荘盆地とその周辺も比較的谷密度の低い地域であり，20-29, 30-39階級によって大部分が占められている。

岡山大学教育学部 高 橋 達 郎  
(調査協力者 村 上 良 子)

## Ⅵ 防 災

防災図には、地すべり防止区域、砂防指定地、流路工、治山構造物、重要水防区域、崖、河床勾配の遷移点、及び大雨による湛水地域等を図示した。

地すべり防止区域は新見市、北房町、賀陽町にそれぞれ1ヶ所ずつ指定されており、砂防指定地は高梁川水系の佐伏川、玉谷川、井戸谷流域、旭川水系の興法寺川、宮地川、豊岡川等に存在し流路3ヶ所、砂防えん堤約58ヶ所が施行されている。

又、主な治山構造物として、山腹工事約138ヶ所、治山えん堤8ヶ所が施行されている。この区域のダムとしては、新見市小阪部川にかんがい、発電を目的とした小阪部ダムが昭和29年に建設されており県南部の12,000haに及ぶ穀倉地帯への貴重な水源の一部となっている。

又、現在上房郡北房町の備中川にかんがいを目的とした北房ダムが建設されており、昭和55年に完成の予定である。重要水防区域は、高梁川の井倉・草間地区、及び備中川の落合町栗原地区の一部に指定されているほか高梁川、備中川、中津井川、及びその支流沿岸を中心に常時湛水地域が27ヶ所程度存在し、台風大雨時に災害が多発している。これらの河川の支流となっている宮地川、大谷川、佐山川等の小溪流は土石流発生危険溪流として調査され流域の平均勾配、溪流の平面形状、河床状況、地質状況等により危険等を判定し防災対策に資することとしている。

この図幅内には、急傾斜指定地は存在しないが、天然崖、人口崖については危険箇所の調査結果に基づき崖の高さ、オーバーハングの有無、表土の厚さ、湧水の有無等を判定基準として危険度を定め災害対策に万全を期することとしている。

地すべり防止区域

区域名	位 置	指定面積 (ha)	指定年月日	所 管
湯 川	上房郡北房町宮地	6.47	S 5 1. 4. 1 3	建設省
上 竹	“ 賀陽町上竹	1 0. 8 0	S 4 9. 3. 1 2	農林省
畑 谷	新見市法曾	1 2. 9 6	S 4 9. 1 2. 2 8	“

ダ ム

種別	水系名	河川名	ダム名	目的	ダム及び貯水池の規模			
					高 さ (m)	長 さ (m)	総貯水量 (10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )	有効貯水量 (10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )
治水	高梁川	小坂部川	小坂部川	かんがい、 発電	67.2	144.0	15,624	15,136

重要水防区域 (県関係)

水系名	河川名	区 域	延 長	危険状況	担当水防 管理団体	担当地区 振 興 局
高梁川	高梁川	新見市井倉・草間	(m) 2,000	堤防高不足 河積不足	新見市	阿新地方 振 興 局
旭 川	備中川 右 岸	真庭郡落合町栗原	500	堤防高不足	落合町	真庭地方 振 興 局

## Ⅶ 開 発 規 制

開発規制図には、国立・国定公園、県立自然公園、県自然保護（保全）地域、国有林、保安林、鳥獣保護区、宅地造成工事規制区域、都市計画区域、天然記念物、埋蔵文化財などを図示している。

この図幅には国立、国定公園はないが、石灰岩地域特有の浸蝕に起因するカルスト地形が見られるほか、新見市、北房町にかけて石灰岩地が広がり、石蟹台、草間台、豊永台などを含め阿哲台地と総称されている。この地域一帯が高梁川上流県立自然公園として指定されており、特に高梁川河岸は浸蝕され、山地の新緑、紅葉等と相俟って溪谷美を誇っている。この図幅内の公園面積は広く約8,000haにおよび、内特別地域が975ha含まれている。その他、上房郡有漢町の大平山、権現山地域はすぐれた景観に恵まれ、天然林、野生動物の生息地として認められ、県自然環境保全地域として指定されているほか上房郡賀陽町の天福寺地域及び高梁市巨瀬町の祇園山地域が自然と一体となって、郷土色豊かな風土を形成し、県民に親しまれる地域としてそれぞれ郷土自然保護地域として指定されている。国有林はこの地域ではかなり多くあり、その面積は約1,422haにおよび、その殆んどがスギ、ヒノキの造林がなされている。

保安林は主に土砂流出防備林と水源かん養林からなり、この地域一帯に散在している。わずかではあるが新見市広石・高梁市方谷などに落石防止保安林が含まれている。鳥獣保護区は上房郡北房町の飯ノ山地域と賀陽町の高陣山地域が指定されているが特別区域はない。

文化財等については、史跡、名勝はないが、国指定の天然記念物として新見市草間の羅生門、間歇冷泉が指定されているほか、カルスト地形特有の石灰洞として井倉洞、鬼女洞、宇山洞、満奇洞をはじめ、上房台なども県の天然記念物として指定されている。埋蔵文化財は備北山地文化の中心として北房町を中心に歴史的遺跡ともいえる古墳、寺跡など約270か所が存在している。

この図幅内には宅地造成工事規制区域はないが、高梁市及び落合町の一部が都市計画区域として指定されている。



県立自然公園

公園名	面積	内特別地域 面積	指定年月日	関係市町村
高梁川上流県立自然公園	ha 13,478	ha 2,953.75	S 41.3.25	高梁市・新見市・芳井町 備中町・北房町・成羽町 川上町

県自然保護（保全）地域

指定区分	指定地域名	面積	指定年月日
岡山県自然環境保全地域	太平山・権現山地域 (上房郡有漢町有漢)	55.60	S 4 8. 1 1. 2 9
郷土自然保護地域	天福寺地域 (上房郡賀陽町豊野)	17.64	S 5 1. 3. 3 0
郷土自然保護地域	祇園山地域 (高梁市巨瀬町)	24.00	S 5 3. 3.

鳥獣保護区

名称	地域名	面積	指定期間
飯ノ山鳥獣保護区	上房郡北房町	584 <sup>ha</sup>	S 5 1. 1. 1 1 ~ S 6 1. 1. 0 3 1
高陣山鳥獣保護区	〃 賀陽町	820 <sup>ha</sup>	S 5 0. 1. 1 1 ~ S 6 0. 1. 0 3 1

## VIII 土地 利用 現 況

本図幅は、高梁市、新見市と上房郡（北房町・有漢町・賀陽町）を中心に、御津郡（加茂川町）阿哲郡（大佐町）及び真庭郡（落合町）を包括する。

土地利用現況図には、土地の利用形態を農地・草地・樹園地・林地・市街地・集落・ゴルフ場等に区分し、その細分を図示した。

この図幅は、約90%近くが山地で占められ、耕地面積は少ないが、大規模草地在賀陽町に、その他加茂川町、落合町、高梁市等に草地在している。

新見市草間・豊永地区には県営による畑地かんがい事業をしているほか、農業構造事業等による土地基盤整備により、野菜・桃等の生産地が形成されている。賀陽町、有漢町、高梁市などにはたばこ畑が多くなっているのが特色である。

林地については、この地域では国有林が多くあることにも起因するが、民有林においてもスギ、ヒノキを中心とした人工林（針葉樹）が比較的多く見受けられる。なかでも落合町ではこの図幅内の殆んどが造林されている。この図幅の西中央部から南東部へと高梁川が流れ河岸沿いには高梁市川面町、新見市井倉町の集落を形成している。また、有漢川、備中川、中津井川沿いにそれぞれ平坦地（谷底平野）が見られるほか、宇甘川沿い、竹荘盆地に平坦地の広がりがあり、集落及び農地となっている。

その他、高梁市中井町のゴルフ場、新見市井倉の採石場などが主なものといえる。

土地利用の概要（昭和50年）

（単位ha）

区分 市町村	総面積 (A)	耕地計 (B)	耕地内訳			耕地率 B/A%	宅地山林	
			田	畑	樹園地			
高梁市	22899	2074	1230	710	134	9.1	314	17,661
新見市	35280	1885	1,119	669	97	5.3	320	30,278
加茂町	14136	1283	830	406	47	9.1	122	10,476
有漢町	4631	591	457	131	4	12.8	50	3,332
北房町	7,176	855	594	213	48	11.9	108	5,451
賀陽町	12726	1936	1,439	471	26	15.2	187	8,581
大佐町	12239	544	405	119	20	4.4	56	10,683
落合町	14761	1,663	1,247	361	56	11.3	291	10,972
計	123848	10,831	7,321	3,080	432	8.7	1,448	97,434

（資料） 昭和50年農業センサスによる（耕地面積）

宅地・山林面積は岡山県土地対策課調べ

史跡・名勝・天然記念物

(国・県指定)

番号	市町村	種別	名称	所在地	国・県指定区分
①	新見市	天然記念物	羅生門	草間	国指定
②	〃	〃	草間の間歌冷泉	〃	〃
③	〃	〃	阿哲台(井倉洞)	井倉	県指定
④	〃	〃	〃(宇山洞)	宇山	〃
⑤	〃	〃	〃(満奇洞)	豊永	〃
⑥	〃	〃	〃(秘坂鐘乳穴)	上皆部	〃
⑦	北房町	〃	〃(諏訪の穴)	下皆部	〃
⑧	〃	〃	〃	下中津井	〃
⑨	〃	〃	上房台(上野呂カルスト)	下皆部	〃
⑩	〃	〃	〃(備中鐘乳穴)	上水田	〃
⑪	落合町	〃	栗原の四本柳	栗原	〃
⑫	有漢町	〃	飯山のえのき	上有漢	〃

埋蔵文化財包蔵地

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
1	高梁市	宝篋印塔	塔さま	中井町・山際	1
2	〃	集落跡	入野遺跡	〃・入野	2
3	〃	散布地	鴨谷遺跡	〃・鴨谷	3
4	〃	古墳	田の口古墳	〃・津々・本村	4
5	〃	散布地	本村前散布地	〃・本村前・本村	5
6	〃	古墳	天神山古墳	〃・西方・市場	6
〃	〃	墳墓	天神山	〃・〃・〃	7・8
7	〃	散布地	佐内散布地	〃・佐内・西方	9
8	〃	〃	西本遺跡	〃・西本・西方	10
9	〃	石造宝塔	祇園寺宝塔	巨瀬町・和名谷	11
10	〃	古墳	念仏塚	〃・茶屋	12
11	〃	墳墓	三村塚	〃・家親	13
12	〃	古墳	〃	〃・〃	14
13	〃	〃	ナカウネ古墳	〃・仲畝	15
〃	〃	〃	ツングエ古墳	〃・	16
14	〃	〃	塚の前古墳	〃・仲畝	17
15	〃	〃	塚野呂古墳	〃・塩坪	18
16	〃	〃	〃	〃・陰地	19
17	〃	〃	柳古墳	〃・柳	20
18	〃	墳墓	〃	川面町・押野	21
19	〃	古墳	押野古墳	〃・〃	22
20	〃	散布地	川面遺跡	〃	23
21	〃	〃	段遺跡	〃・段	24
22	〃	古墳	古川古墳	〃・古川	25
23	〃	散布地	〃	〃・〃	26
24	〃	〃	上秋町遺跡	高倉町・上秋町	27
25	〃	経塚	〃	津川町・八川・実相寺	28
26	〃	五輪塔群	〃	〃・〃・花田	29
27	〃	散布地	〃	〃・〃・中曾	30
28	〃	〃	〃	〃・堂屋敷	31
29	〃	墳墓	首塚	〃・八川・堂屋敷	32
30	〃	城跡	加葉山城跡	中井町・津	76
31	〃	〃	津々城	〃・津々羅	77
32	〃	〃	城山	〃・庄屋谷	78
33	〃	〃	粧田山城跡	巨瀬町・片岡	79
34	〃	〃	寺山城西の丸	川面町・寺山	86
35	〃	〃	寺山城本丸	〃・〃	87
〃	〃	〃	寺山城跡馬乗場	〃・〃	88
36	〃	〃	城平	津川町・鳴戸	89
37	新見市	中世墳墓地	三尾墳墓	豊永・三尾	1
38	〃	〃	横墳墓	〃・横	2
39	〃	中世墳墓	本村墳墓	豊永宇山・本村	3
40	〃	散布地	宇山洞穴遺跡	〃・矢中	4

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
41	新見市	散布地(集落跡)	馬撃遺跡A地点	草間・馬撃	5
42	〃	〃(〃)	〃B地点	〃・〃	6
43	〃	〃(〃)	〃C地点	〃・〃	7
44	〃	洞穴遺跡	羅生門金毘羅洞穴	〃・〃	8
45	〃	中世墳墓地	上下墳墓	定見・上下	9
46	〃	洞穴遺跡	コームリ穴洞穴	唐松	10
47	〃	山城址	鬼山城址	〃・位田鬼山	11
48	〃	散布地	位田遺跡	〃・位田	12
49	〃	古墳	鬼山古墳群(1号墳~6号墳)	〃・〃	13-1~13-6
50	〃	〃	金谷の塚	〃・〃	14
51	〃	〃	塚本の塚	〃・〃	15
52	〃	中世墓	〃	〃・〃	16
53	〃	中世墳墓	小市墳墓	〃・小市	17
54	〃	古墳	掛屋塚	〃・〃	18
55	〃	中世墳墓	唐松墳墓	〃・〃	19
56	〃	古墳	山中の塚	〃・〃	20
57	〃	〃	真壁円山塚	〃・真壁	21
58	〃	中世墓	真壁墳墓	〃・〃	22
59	〃	古墳	真壁古墳	〃・〃	23
60	〃	中世墳墓	佐栗谷墳墓	〃・〃	24
61	〃	古墳	番迫の塚1号墳	〃・田元上	25-1
62	〃	〃	〃2号墳	〃・〃	25-2
63	〃	〃	田元上の塚	〃・〃	26
64	〃	〃	岩山神社古墳1号墳	〃・宮組	27-1
65	〃	〃	〃2号墳	〃・〃	27-2
66	〃	〃	安田の塚	〃・〃	28
67	〃	中世墓地	宮地墳墓	〃・〃	29
68	〃	古墳	宮地の塚	〃・〃	68
69	加茂川町	寺院跡	宗林庵寺跡	和田・青木	10
70	有漢町	古墳	大鳴1号墳・2号墳	有漢・山形郷の坂下	1-1・1-2
71	〃	〃	高田1号墳	〃・畦地高田原	2-1
72	〃	〃	〃2号墳	〃・〃	2-2
73	〃	〃	〃3号墳	〃・〃	2-3
74	〃	〃	〃4号墳	〃・〃	2-4
75	〃	建物址	〃	〃・畦地	3
76	〃	古墳	〃	〃・〃	4
77	〃	墳墓	馬場ウネ遺跡	〃・馬場ウネ	5
78	〃	寺址・中世墓地	清浄寺址	〃・畦地清浄地	6
79	〃	包蔵地	鐘つき堂遺跡	〃・〃	7
80	〃	墳墓	医王堂遺跡	〃・茶堂医王堂	8
81	〃	城址	常山城址	〃・土居常山	9
82	〃	経塚	御崎神社経塚遺跡	〃・土居原	10
83	〃	建物址	正尺屋敷遺跡	〃・土居正尺屋敷	11
84	〃	包蔵地	畝迫A地点遺跡	上有漢・大谷畝迫	12
85	〃	〃	畝迫B地点遺跡	〃・〃	13
86	〃	散布地	オノ尾遺跡	〃・大谷オノ尾	14
87	〃	墳墓	中村遺跡	〃・大谷中村	15
88	〃	〃	善覚遺跡	〃・〃	16
89	〃	古墳	月山古墳	〃・川関上月山	17
90	〃	墳墓	〃	〃・川関上	18
91	〃	寺院・墳墓	保月山高雲寺址	〃・垣大石保月	19
92	〃	古墳	長代西組古墳	〃・長代西組	20
93	〃	墳墓	〃	有漢・土居原	21
94	〃	包蔵地	大塚遺跡	〃・大塚	22
95	〃	古墳石室	大塚1号墳	〃・〃	23-1
96	〃	〃	〃2号墳	〃・〃	23-2
97	〃	〃	善法寺奥古墳	〃・大塚善法寺奥	24
98	〃	古墳	大塚狐平古墳	〃・大塚	25
99	〃	墳墓	〃	〃・畦地	26

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
100	有漢町	城址	台ヶ鼻城址	有漢・城下	27
101	北房町	散布地	蓬原遺跡	上中津井・蓬原	1
102	"	"	向田遺跡	"	2
103	"	古墳	蓬原古墳	"	3
104	"	集落址	鷺の花遺跡	"	4
105	"	古墳	古後路古墳(1号)	"	5
106	"	"	"(2号)	"	6
107	"	"	間久保古墳	"	7
108	"	散布地	間久保遺跡	"	8
109	"	"	千字山遺跡	"	9
110	"	古墳	宇根古墳	"	10
111	"	祭祀遺跡	矢の内遺跡	"	11
112	"	古墳	大塚古墳	"	12
113	"	"	上定古墳(1号)	"	13
114	"	"	"(2号)	"	14
115	"	散布地	上定散布地	"	15
116	"	古墳	下定古墳	"	16
117	"	散布地	渡り遺跡	"	17
118	"	"	大谷遺跡	"	18
119	"	古墳	大谷古墳(1号)	"	19
120	"	"	"(2号)	"	20
121	"	"	新殿1号墳~3号墳	"	21・22・23
122	"	散布地	こうじゃ遺跡	"	24
123	"	"	藤田遺跡	"	25
124	"	古墳	宇善寺古墳	"	26
125	"	散布地	猿ヶ市遺跡	"	27
126	"	古墳	猿ヶ市1号墳~2号墳	"	28・29
127	"	集落址	名乞遺跡1号	"	30
128	"	包含層	"2号	"	31
129	"	古墳	大谷古墳3号	"	32
130	"	住居址	大谷住居跡	"	33
131	"	散布地	福島遺跡	"	34
132	"	古墳	上大田古墳	下皆部・上大田	35
133	"	包含層	八幡前遺跡	"	36
"	"	古墳	八幡前古墳(1号~3号)	"	37・38・39
134	"	"	丸山古墳(1号~8号)	"	43~50
135	"	散布地	大神遺跡	"	51
136	"	古墳	大神古墳	"	52
137	"	刀工工房跡	為家鍛冶場	"	53
138	"	経塚	万福寺経塚	"	54
139	"	散布地	上合地遺跡	"	55
140	"	古墳	上合地古墳(2号)	"	56
141	"	散布地	アゼチ遺跡	"	57
142	"	古墳	アゼチ古墳(1号~3号)	"	58・59・60
"	"	"	上合地古墳(1号)	"	61
143	"	"	桃山古墳(1号~2号)	"	62・63
"	"	集落	桃山遺跡	"	64
144	"	散布地	角尾遺跡	上中津井・角尾	65
145	"	古墳	角尾古墳	"	66
146	"	城址	才田城跡	下中津井・才田	67
147	"	古墳	才田古墳(1号~4号)	"	68~71
148	"	散布地	鐘方遺跡	"	72
149	"	"	才田奥遺跡	"	73
150	"	経塚	願成山古墳(1号~3号)	"	74~76
151	"	古墳	遠近古墳	"	77
152	"	住居跡	遠近遺跡	"	78
153	"	古墳	土井古墳(1号)	"	79
154	"	経塚	才室古墳(1号・2号)	"	80・81
155	"	古墳	土井古墳(2号)	"	82

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
156	北房町	散布地	才室遺跡	下中津井・才田	83
157	"	"	正木遺跡	"	84
158	"	"	土井跡	"	85
159	"	古墳	土井古墳(4号)	"	86
"	"	"	土井横穴古墳(1号~3号)	"	87~89
160	"	"	貝原古墳(1号・2号)	"	90・91
161	"	"	土井古墳(3号)	"	92
162	"	"	下村古墳(1号)	"	93
163	"	"	小殿横穴古墳(1号~9号)	上水田・小殿	97-1~97-9
164	"	集落	三本松遺跡	下中津井・三本松	108
165	"	古墳	荒木城御崎古墳	上水田・荒木城御崎	113
166	"	"	"(2号)	"	114
167	"	"	郷平古墳(1号・2号)	"	118・119
"	"	"	宮の前古墳(3号)	"	120
168	"	造刀跡	小松奥遺跡	"	143
169	"	古墳	常の池古墳(1号~5号)	"	155~159
170	"	集落	板谷池遺跡	"	166
171	"	古墳	下村古墳(2号)	下中津井・下村	94
"	"	"	御陵古墳	上水田・小殿御陵	95
"	"	散布地	小殿奥遺跡	"	96
"	"	古墳	小殿奥古墳(1号~4号)	"	98・99・101・102
"	"	散布地	小殿池奥遺跡	"	100
"	"	古墳	立古墳(1号)	"	103
"	"	散布地	高屋遺跡	下中津井・高屋	104
"	"	古墳	高屋古墳(1号)	"	105
"	"	"	"(2号)	上水田・小殿	106
"	"	"	三本松古墳	"	107
"	"	"	立古墳(1号~3号)	"	109・131・132・133
"	"	散布地	立遺跡	"	110
"	"	"	小松遺跡	"	111
"	"	古墳	荒木山古墳	"	112
"	"	"	又丸古墳	"	123
"	"	"	荒木古墳(3号)	"	115
"	"	"	宮迫古墳(1号・2号)	"	116・117
"	"	"	立奥池横穴古墳(1号)	"	134
"	"	散布地	小松西池遺跡	"	135
"	"	古墳	小松古墳(1号~7号)	"	136~142
"	"	"	宮の前古墳(1号・2号)	"	149・150
"	"	"	小松東古墳(1号~7号)	"	144・145・147・148 151~153
"	"	散布地	小松寺跡	"	146
"	"	古墳	御崎東古墳	"	154
"	"	"	板谷池古墳(1号~6号)	"	160~165
"	"	"	畦の山古墳(1号~4号)	"	168~171
"	"	"	常の池古墳(6号)	"	172
"	"	城址	福尾城址	"	167
172	"	集落址	白鳥遺跡	上中津井・鳥方	122
173	"	散布地	平遺跡	五名・平	124-1
174	"	古墳	八幡山古墳	"	124-2
175	"	散布地	植木遺跡	下皆部・植木	127
176	"	古墳	たわ古墳	"	121
177	"	集落址	谷尻遺跡	上水田・谷尻	125
178	"	古墳	岩木古墳	下皆部・岩木	129
179	"	"	空1号墳	"	130
180	"	寺跡	英賀庵寺跡	上水田・高倉	173
181	"	古墳	八幡山古墳(1号~7号)	山田・八幡	174~180
182	"	"	山田古墳	"	181
183	"	"	境横穴古墳	"	182
184	"	"	国司塚1号	"	183
185	"	"	"2号	"	184

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
186	北房町	古墳	地蔵鼻古墳1号	山田・境下	185
187	〃	〃	〃 2号	〃	186
188	〃	史跡	大野塚	〃	187
189	〃	古墳	宮地東古墳1号	宮地・宮地奥	188
190	〃	〃	〃 2号	〃	189
191	〃	〃	〃 3号	〃	190
192	〃	〃	愛宕山古墳(1号~7号)	上水田・赤茂	191~197
193	〃	遺跡	菅野山遺跡	〃	198
194	〃	城址	高鶴部城址	上菅部・高鶴部	199
195	〃	史跡	馬乗場址	〃	200
196	〃	古墳	三谷廃寺跡古墳	〃	201
197	〃	〃	三谷古墳1号	〃	202
198	〃	〃	真塚古墳1号	〃	203
199	〃	〃	〃 2号	〃	204
200	〃	〃	塚の峠古墳群(1号~4号)	上水田・塚の峠	205~208
201	〃	〃	国重古墳	〃	209
202	〃	〃	赤羽根古墳群(1号~5号)	〃	210~214
203	〃	〃	長ぞね古墳群(1号~4号)	〃	215~218
204	〃	〃	東観現寺古墳群(1号)	〃	219
205	〃	〃	〃 (2号)	〃	220
206	〃	〃	観現寺山古墳群(1号~7号)	〃	221~227
207	〃	〃	山之城古墳群(1号~7号)	五名・山之城	228~234
208	〃	〃	広高下古墳群(1号~5号)	〃	235~239
209	〃	〃	高下古墳群(1号~2号)	〃	240・241
	〃	〃	大塚古墳	〃	242
	〃	〃	興法地古墳1号	〃	243
210	〃	〃	興法地火塚古墳	〃	244
211	〃	〃	笹原古墳	〃	245
212	〃	〃	空2号墳	下菅部・空	246
213	〃	〃	天神山古墳	上菅部・安田	247
214	〃	〃	小田鼻古墳	〃	248
215	〃	集落	諏訪住居址	下菅部・諏訪	249
216	〃	散布地	成平遺跡	上中津井・才田	250
217	〃	城址	丸山城址	下菅部・丸山	251
218	〃	窯址	赤灰厄窯跡	上水田・ナラビ	253
219	〃	城址	山王城址	五名・山王山	252
220	賀陽町	〃	矢倉畦城跡	納地・矢倉	7
221	〃	〃	離小屋城跡	上竹・小屋	8
	〃	墳墓地	俵原首塚	〃	9
222	〃	古墳	貞徳寺塚古墳	竹荘・長岡	11
223	〃	〃	井坂塚古墳	〃	12
224	〃	〃	大久保塚古墳	〃	13
225	〃	〃	板屋古墳	〃	14
226	〃	〃	恋田塚古墳	〃	15
227	〃	古墳群	恋田山古墳群	〃	16
228	〃	城跡	上ヶ城跡	〃	17
229	〃	古墳	吉岡古墳	豊野・下市	18
230	〃	〃	下市大塚古墳	〃	19
231	〃	古墳群	ぬくゆ古墳群	〃	20
	北房町	古墳	大黒山古墳	〃	21
	〃	〃	椿古墳	〃	22
232	賀陽町	城跡	羽子田城跡	〃	23
233	〃	〃	土生山城跡	田土・土生	24
234	〃	〃	桜坂城跡	〃	25
235	〃	〃	藤沢城跡	〃	26
236	〃	〃	小谷城跡	湯山・下ヶ原	27
237	〃	〃	大畑城跡	〃	28
238	〃	墳墓地		片山	41
239	〃	古墳	俵原古墳	上竹・俵原	42

番号	市町村	種別	名称	所在地	遺跡番号
240	賀陽町	神社跡		上竹・俵原	43
241	〃	岩座		〃	44
242	〃	〃		〃	45
243	大佐町	塚跡	経塚	田治部・勘定	9
244	落合町	古墳	一色八幡古墳	一色	83
245	〃	〃	一色宮の前遺跡	〃	84
246	〃	〃	一色古墳	〃	85
247	〃	集落	角瀬遺跡	〃	86
248	〃	古墳	永明寺古墳	〃	87
249	〃	〃	下一色古墳	〃	88
250	〃	〃	坂本古墳群(1号~6号)	栗原・坂本	90~95
251	〃	〃	相原古墳群(1号~4号)	〃	96~99
252	〃	散布地	おおい権現遺跡	〃	100
253	〃	古墳	西谷古墳群(1号)	〃	101
254	〃	〃	〃 (2号)	栗原	102
255	〃	〃	〃 (3号)	〃	103
256	〃	〃	瑞祥寺古墳	〃	104
257	〃	〃	横山谷古墳(1号~5号)	〃	105~109
258	〃	〃	薬師堂古墳	〃	110
259	〃	散布地	栗原大山遺跡	〃	111

(注) この資料は、昭和52年岡山県教育庁文化課資料による。

1978年5月 印刷発行

土地分類基本調査

# 部 部

編集発行 岡山県企画部土地対策課  
岡山市内山下2丁目4番6号

印刷 (地図・説明書)

昇寿チャート株式会社  
東京都台東区台東2丁目27番9号